



鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
(163)

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (163)

川内川激甚災害対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (V)

しも づる 下 鶴 遺 跡

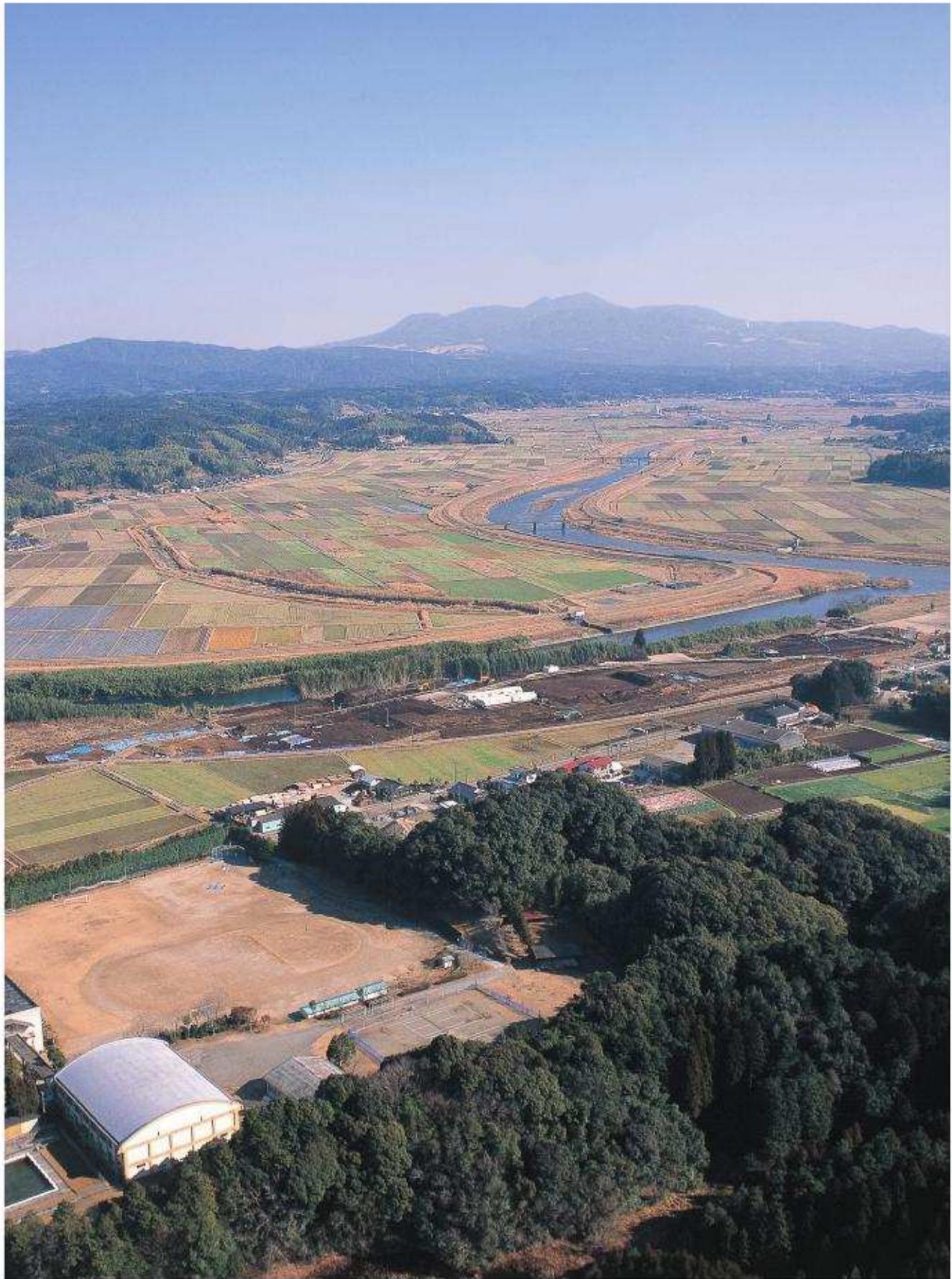
(伊佐市)

下鶴遺跡

二〇一一年三月 鹿児島県立埋蔵文化財センター

2011年3月

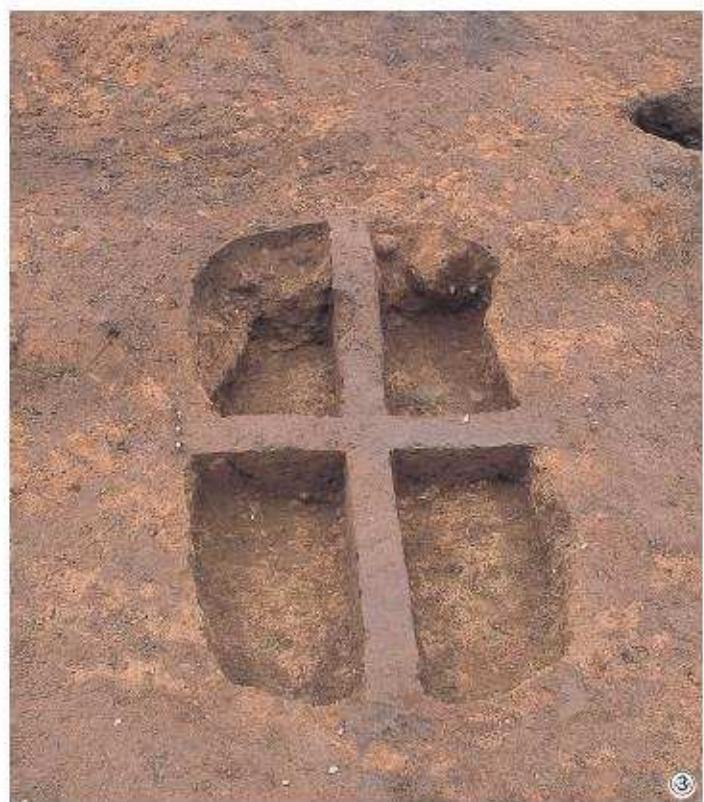
鹿児島県立埋蔵文化財センター



遺跡遠景（西から東方向）



土坑墓群



①弥生土坑49号 ②・③弥生土坑37号



弥生時代の遺物



114



14



115

弥生時代の遺物

序 文

この報告書は、川内川激甚災害対策特別緊急事業に伴って、平成21年度及び平成22年度に実施した伊佐市大口下殿（旧大口市）に所在する下鶴遺跡の発掘調査の記録です。

本遺跡は、縄文時代から近世に至る複合遺跡であり、多量の遺構・遺物が発見されました。

縄文時代では、4軒の竪穴住居跡や石器製作跡と考えられる黒曜石が集中して出土したことなどから、この地で一定期間、定住生活を営んでいたことがわかりました。

弥生時代では、調査区北側で検出された土坑から武器形青銅器の一種である銅戈が出土しました。これは、本県初の出土事例であると共に、本土最南端の出土事例となり注目を集めています。

古墳時代では、93軒の竪穴住居跡など多数の遺構が検出され、この地に大規模な集落が長期間営まれていたことがわかりました。

古代では、緑釉陶器や越州窯系青磁が出土しています。

中世から近世では、国内外産の様々な陶磁器がまとまって出土しています。特に、遺物組成から単なる村落とは異なる様相が浮かび上がっています。

これらの注目される遺構・遺物の発見の背景には、河川との深い結びつきを感じずにはいられません。

本報告書が、県民の皆様はじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたりご協力をいただいた国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所、伊佐市教育委員会並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長 山下吉美

報告書抄録

ふりがな	しもづる いせき							
書名	下鶴遺跡							
副書名	川内川激甚災害対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(V)							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第163集							
編著者名	黒川忠広・吉岡康弘・有馬孝一・新中なるみ・福原誠也・益山郁恵							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号 TEL 0995-48-5811 FAX 0995-48-5821							
発行年月日	西暦2011年3月							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	日本測地系経緯度 遺跡番号	北緯 東経	発掘期間	発掘面積 (m ²)	調査起因	
しもづる いせき 下鶴遺跡	いさし 伊佐市 おおくちしの 大口下殿 あがしもづる 字下鶴	46224	9-140	31° 01' 00"	130° 36' 00"	2009.5.8~ 2010.3.25 2010.6.1~ 2010.7.27	40,400m ²	川内川激甚災害 対策特別緊急事 業に伴う記録保 存調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
下鶴遺跡	集落跡	縄文時代早期 中期 後期 晩期 後~晩期 弥生時代早期 前期 中期 後期 前~後期 古墳時代 古代 中・近世	堅穴住居跡4軒 土坑34基 土坑52基 壇棺1基 堅穴住居跡93軒 土坑28基 掘立柱建物跡1 棟・土坑3基 掘立柱建物跡14 棟・堅穴建物跡13軒 建物状遺構3軒 土坑29基 大型土坑8基 炉状遺構19基 溝状遺構3条	押型文・変形撲糸文 並木式・阿高系 松山式・市来式・丸尾式・ 納曾式・鐘崎式・北久根山 式・辛川式・西平式・三万 田式・台付皿 入佐式・黒川式 石錠・石匙・スクレイバー・ 石錐・楔形石器・打製石 斧・磨製石斧・石錘・石皿 刻目突帶文 高橋式 入来式・黒髮式・ボテ甕・ 銅戈 免田式 抉入柱状片刃石斧・銅鏡 東原式・辻堂原式・筈貫 式・須恵器・磨製石錠・石 庖丁・砥石・石皿・鉄製品 土師器・黒色土器A類・黒 色土器B類・須恵器・綠釉 陶器・越州窯系青磁・土 鍤・焼成粘土塊 土師器・青磁・白磁・青 花・輸入陶器・備前焼・肥 前系陶磁器・在地系陶磁 器・薩摩焼・瓦質土器・土 師質土器・銅製品・滑石製 品・軽石製品・錢貨など				
要約	縄文時代から近世に至るまでの複合遺跡。弥生時代の土坑群は、その形状などから墓の可能性が高く、この内の1基から武器形青銅器の一種である銅戈先端部が出土している。これは、本県初であると共に現段階における日本最南端の出土事例である。古墳時代においては、堅穴住居跡93軒をはじめとする遺構群が検出された。特に、羽月川と白木川とが合流する部分での密集度が高く、隣接する梅木遺跡と一連のものである可能性も考えられる。加えて、同一河岸段丘上には地下式板石積石室墓が検出された焼山遺跡もあり、河川と集落・墓地といった当時の集落景観を復元する上で重要なものとなった。古代においては、綠釉陶器や越州窯系青磁など一般集落ではあまり見られない資料が出土するなどその背景が注目される。中世から近世にかけては、堅穴建物跡や掘立柱建物跡、炉状遺構や溝状遺構など多種多様な遺構が検出されている。これらに伴う陶磁器の組成は、食膳具が少ないという特徴が浮かび上がっており、生活の場としての集落以外の用途も想定される。							



遺跡位置図 (1/50,000)

例　　言

- 1 本書は、川内川激甚災害対策特別緊急事業に伴う下鶴遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県伊佐市大口下殿字下鶴（旧大口市下殿字下鶴）に所在する。
- 3 発掘調査及び報告書作成（整理作業）は、国土交通省から鹿児島県教育委員会が受託し、鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査は、平成21年5月8日～平成22年3月25日、平成22年6月1日～平成22年7月27日にかけて実施し、整理作業・報告書作成は平成21年度・平成22年度に実施した。
- 5 遺物番号は、時代ごとの通し番号とし、本文・挿図・表・図版の番号は一致する。
- 6 挿図の縮尺は、各図面に示した。
- 7 本書で用いたレベル数値は、国土交通省が提示した工事計画図面に基づく海拔絶対高である。
- 8 発掘調査における図面作成の一部は新和技術コンサルタント、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 9 発掘調査における写真の撮影は、各年度の調査担当者が行い、空中写真撮影は、有限会社ふじたに委託した。
- 10 遺構実測図のトレースの一部は、有限会社ジパング・サーベイに委託し、有馬孝一・黒川忠広が監修した。
- 11 土器の実測・トレースの一部は、株式会社バスコに委託し、黒川が監修した。
- 12 陶磁器の実測・トレースの一部は、大成エンジニアリングに委託し、新中なるみが監修した。
- 13 石器の実測・トレースの一部は、株式会社九州文化財研究所、株式会社バスコに委託し、監修は有馬・黒川・益山郁恵が行った。
- 14 自然科学分析は、株式会社パリノ・サーヴェイ、株式会社パレオ・ラボ、(株) 加速器分析研究所に委託した。
- 15 遺物の写真撮影は、吉岡康弘が行った。
- 16 本書の編集は黒川が担当し、執筆分担は次の通りである。

第1章 黒川・福原誠也
第2章 黒川・福原
第3章 第1節 黒川
第2節 黒川
第3節 1 (1) 有馬・益山
(2) 有馬
(3) 有馬・益山
2 (1) 有馬
(2) 有馬
(3) 益山
3 黒川
4 福原
5 新中・吉岡
第4章 第1節 益山
第2節 パリノ・サーヴェイ株式会社
第3節 パレオ・ラボAMS年代測定グループ
第4節 (株) 加速器分析研究所
第5節 内山伸明
第6節 中村幸一郎
第7節 内山
第8節 中村
第9節 中村
第5章 第1節 有馬・益山 (遺構及び土器：有馬、石器：益山)
第2節 有馬・益山 (遺構：有馬、土器及び石器：益山)
第3節 黒川
第4節 福原
第5節 新中
第6節 黒川

- 17 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する予定である。なお、下鶴遺跡の遺物注記の略号は「S Z」である。

本文目次

序文	
報告書抄録	
例言	
第1章 発掘調査の経過	
第1節 調査に至るまでの経緯	001
第2節 事前調査	001
第3節 本調査	003
第4節 調査の経過	003
第5節 整理作業の経緯	004
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	005
第2節 歴史的環境	005
第3章 発掘調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	010
第2節 層序	013
第3節 調査の成果	021
1 縄文時代の調査	
(1) 調査の概要	021
(2) 遺構	030
(3) 遺物	052
2 弥生時代の調査	
(1) 調査の概要	139
(2) 遺構	139
(3) 遺物	170
3 古墳時代の調査	
(1) 調査の概要	181
(2) 遺構	181
(3) 遺物	381
4 古代の調査	
(1) 調査の概要	391
(2) 遺構	391
(3) 遺物	398
5 中世・近世の調査	
(1) 調査の概要	407
(2) 遺構	417
(3) 包含層出土遺物	479
6 近・現代の調査	
観察表	501
第4章 自然科学分析	545
第5章 総括	564
写真図版	573

挿図目次

第1図 トレンチ配置図	002	第25図 堪穴住居跡4号・ 遺物出土状況	035	第39図 土坑26~32号出土遺物	050
第2図 周辺地形の移り変わり	006	第26図 堪穴住居跡4号・ 出土遺物	035	第40図 土坑33, 34号出土遺物	051
第3図 周辺遺跡地図	008	第27図 堪穴住居跡4号・ 出土遺物	036	第41図 包含層遺物出土状況①	053
第4図 下鶴遺跡周辺図	011	第28図 集石・集石内出土遺物	037	第42図 包含層遺物出土状況②	054
第5図 グリッド配置図	012	第29図 土坑3~6, 11, 17号・ 6号, 17号 遺物出土状況	038	第43図 包含層出土遺物①	055
第6図 基本土層図	013	第30図 土坑20~23, 26号	040	第44図 包含層出土遺物②	056
第7図 土層断面図①	017	第31図 土坑28~32号, 29~31号遺物出土状況	041	第45図 包含層出土遺物③	057
第8図 土層断面図②	018	第32図 土坑8, 12~15号, 15, 33号遺物出土状況	042	第46図 包含層出土遺物④	058
第9図 土層断面図③	019	第33図 土坑16, 18, 19, 24, 25, 27号・18, 19号 遺物出土状況	043	第47図 包含層出土遺物⑤	060
第10図 土層断面図④	020	第34図 土坑1, 2, 7, 34号・ 1, 2, 34号 遺物出土状況	044	第48図 包含層出土遺物⑥	061
第11図 出土遺物割合図	021	第35図 土坑9, 10号	045	第49図 包含層出土遺物⑦	062
第12図 遺構配置図①	022	第36図 土坑1, 3, 6号 出土遺物	046	第50図 包含層出土遺物⑧	063
第13図 遺構配置図②	023	第37図 土坑13~15, 17, 18号出土遺物	047	第51図 包含層出土遺物⑨	064
第14図 遺構配置図③	024	第38図 土坑19~23号出土遺物	049	第52図 包含層出土遺物⑩	065
第15図 遺構配置図④	025			第53図 包含層出土遺物⑪	066
第16図 遺構配置図⑤	026			第54図 包含層出土遺物⑫	067
第17図 遺構配置図⑥	027			第55図 包含層出土遺物⑬	068
第18図 遺構配置図⑦	028			第56図 包含層出土遺物⑭	069
第19図 遺構配置図⑧	029			第57図 包含層出土遺物⑮	070
第20図 堪穴住居跡1号	030			第58図 包含層出土遺物⑯	071
第21図 堪穴住居跡1号・ 出土遺物	031			第59図 包含層出土遺物⑰	072
第22図 堪穴住居跡2号	032			第60図 包含層出土遺物⑱	073
第23図 堪穴住居跡3号・ 遺物出土状況	033			第61図 包含層出土遺物⑲	074
第24図 堪穴住居跡3号・ 出土遺物	034			第62図 包含層出土遺物⑳	075
				第63図 包含層出土遺物㉑	076
				第64図 包含層出土遺物㉒	077
				第65図 包含層出土遺物㉓	078

第66図	包含層出土遺物②	079
第67図	包含層出土遺物③	081
第68図	包含層出土遺物④	082
第69図	包含層出土遺物⑤	083
第70図	包含層出土遺物⑥	084
第71図	包含層出土遺物⑦	085
第72図	包含層出土遺物⑧	086
第73図	包含層出土遺物⑨	087
第74図	包含層出土遺物⑩	088
第75図	包含層出土遺物⑪	089
第76図	包含層出土遺物⑫	090
第77図	包含層出土遺物⑬	091
第78図	包含層出土遺物⑭	092
第79図	包含層出土遺物⑮	093
第80図	包含層出土遺物⑯	094
第81図	包含層出土狀況①	096
第82図	包含層出土狀況②	097
第83図	包含層出土狀況③	098
第84図	包含層出土狀況④	099
第85図	包含層出土狀況⑤	100
第86図	包含層出土狀況⑥	101
第87図	包含層出土遺物①	102
第88図	包含層出土遺物②	103
第89図	包含層出土遺物③	104
第90図	包含層出土遺物④	105
第91図	包含層出土遺物⑤	106
第92図	包含層出土遺物⑥	107
第93図	包含層出土遺物⑦	108
第94図	包含層出土遺物⑧	109
第95図	包含層出土遺物⑨	110
第96図	包含層出土遺物⑩	111
第97図	包含層出土遺物⑪	112
第98図	包含層出土遺物⑫	113
第99図	包含層出土遺物⑬	114
第100図	包含層出土遺物⑭	115
第101図	包含層出土遺物⑮	116
第102図	包含層出土遺物⑯	117
第103図	包含層出土遺物⑰	118
第104図	包含層出土遺物⑱	119
第105図	包含層出土遺物⑲	120
第106図	包含層出土遺物⑳	121
第107図	包含層出土遺物㉑	122
第108図	包含層出土遺物㉒	123
第109図	包含層出土遺物㉓	124
第110図	包含層出土遺物㉔	125
第111図	包含層出土遺物㉕	126
第112図	包含層出土遺物㉖	127
第113図	包含層出土遺物㉗	128
第114図	包含層出土遺物㉘	129
第115図	包含層出土遺物㉙	130
第116図	包含層出土遺物㉚	131
第117図	包含層出土遺物㉛	132
第118図	包含層出土遺物㉜	133
第119図	包含層出土遺物㉝	134
第120図	包含層出土遺物㉞	135
第121図	包含層出土遺物㉟	136
第122図	包含層出土遺物㉟	137
第123図	包含層出土遺物㉟	138
第124図	遺構配置図①	140
第125図	遺構配置図②	141
第126図	遺構配置図③	142
第127図	遺構配置図④	143
第128図	遺構配置図⑤	144
第129図	遺構配置図⑥	145
第130図	土坑 6, 7 号	146
第131図	土坑 8, 9, 17 号	147
第132図	土坑 27, 34 号・ 34号遺物出土狀況	148
第133図	土坑 37, 48 号・48号 遺物出土狀況	149
第134図	土坑 49, 51 号	151
第135図	土坑 33, 39 号	152
第136図	土坑 13, 35, 41, 42 号	153
第137図	土坑 1, 3 号	155
第138図	土坑 10, 11 号	156
第139図	土坑 12, 19 号・19号 遺物出土狀況	157
第140図	土坑 21, 22 号	158
第141図	土坑 24~26 号	159
第142図	土坑 30, 31, 38, 40 号	160
第143図	土坑 44, 45 号	161
第144図	土坑 46, 47 号・47号 遺物出土狀況	162
第145図	土坑 18, 50, 52 号 遺物出土狀況	163
第146図	土坑 23, 28 号	165
第147図	土坑 2, 5, 15 号	166
第148図	土坑 4, 20, 32, 36 号	167
第149図	土坑 14, 29, 43 号・43号 遺物出土狀況	168
第150図	壺棺（土坑 16 号）・ 出土遺物	170
第151図	土坑 9, 19 号出土遺物	171
第152図	土坑 26, 34, 43, 47, 48, 52 号出土遺物	172
第153図	遺物出土狀況	174
第154図	包含層出土遺物①	175
第155図	包含層出土遺物②	176
第156図	包含層出土遺物③	177
第157図	包含層出土遺物④	178
第158図	包含層出土遺物⑤	179
第159図	包含層出土遺物⑥	180
第160図	遺構配置図①	182
第161図	遺構配置図②	183
第162図	遺構配置図③	184
第163図	遺構配置図④	185
第164図	遺構配置図⑤	186
第165図	遺構配置図⑥	187
第166図	遺構配置図⑦	188
第167図	遺構配置図⑧	189
第168図	遺構配置図⑨	190
第169図	遺構配置図⑩	191
第170図	遺構配置図⑪	192
第171図	遺構配置図⑫	193
第172図	遺構配置図⑬	194
第173図	遺構配置図⑭	195
第174図	遺構配置図⑮	196
第175図	遺構配置図⑯	197
第176図	遺構配置図⑰	198
第177図	遺構配置図⑱	199
第178図	遺構配置図⑲	200
第179図	遺構配置図⑳	201
第180図	遺構配置図㉑	202
第181図	遺構配置図㉒	203
第182図	遺構配置図㉓	204
第183図	遺構配置図㉔	205
第184図	遺構配置図㉕	206
第185図	遺構配置図㉖	207
第186図	遺構配置図㉗	208
第187図	遺構配置図㉘	209
第188図	遺構配置図㉙	210
第189図	遺構配置図㉚	211
第190図	遺構配置図㉛	212
第191図	遺構配置図㉜	213
第192図	遺構配置図㉝	214
第193図	遺構配置図㉞	215
第194図	遺構配置図㉟	216
第195図	竪穴住居跡 1 号・ 出土遺物①	217
第196図	竪穴住居跡 1 号 出土遺物②	218
第197図	竪穴住居跡 2 号・ 出土遺物	219
第198図	竪穴住居跡 3 号, 4 号	220
第199図	竪穴住居跡 3 号, 4 号 出土遺物①	221
第200図	竪穴住居跡 3 号, 4 号 出土遺物②	222
第201図	竪穴住居跡 5 ~ 9 号	223
第202図	竪穴住居跡 5 ~ 9 号・竪穴 住居跡 5 号出土遺物	224
第203図	竪穴住居跡 5 ~ 9 号	225
第204図	竪穴住居跡 6 号 出土遺物	226
第205図	竪穴住居跡 7 号, 8 号 出土遺物	227
第206図	竪穴住居跡 8 号, 9 号 出土遺物	228
第207図	竪穴住居跡 9 号 出土遺物	229
第208図	竪穴住居跡 10 号, 11 号	230
第209図	竪穴住居跡 10 号, 11 号 出土遺物	231
第210図	竪穴住居跡 12 号・ 出土遺物	232

第211図	竪穴住居跡13号・ 出土遺物	233
第212図	竪穴住居跡14号・ 出土遺物	234
第213図	竪穴住居跡15号・ 出土遺物①	235
第214図	竪穴住居跡15号 出土遺物②	236
第215図	竪穴住居跡16号	236
第216図	竪穴住居跡16号 出土遺物	237
第217図	竪穴住居跡17号	239
第218図	竪穴住居跡17号 遺物出土状況	240
第219図	竪穴住居跡17号 出土遺物①	241
第220図	竪穴住居跡17号 出土遺物②	242
第221図	竪穴住居跡17号 出土遺物③	243
第222図	竪穴住居跡17号 出土遺物④	244
第223図	竪穴住居跡17号 出土遺物⑤	245
第224図	竪穴住居跡17号 出土遺物⑥	246
第225図	竪穴住居跡17号 出土遺物⑦	247
第226図	竪穴住居跡17号 出土遺物⑧	248
第227図	竪穴住居跡18号 遺物出土状況	249
第228図	竪穴住居跡18号・ 出土遺物①	250
第229図	竪穴住居跡18号 出土遺物②	251
第230図	竪穴住居跡19号	251
第231図	竪穴住居跡19号 出土遺物	252
第232図	竪穴住居跡20号	252
第233図	竪穴住居跡20号 出土遺物	253
第234図	竪穴住居跡21号 遺物出土状況	253
第235図	竪穴住居跡21号・ 出土遺物①	254
第236図	竪穴住居跡21号 出土遺物②	255
第237図	竪穴住居跡22号・ 出土遺物	256
第238図	竪穴住居跡23号	257
第239図	竪穴住居跡23号 出土遺物	258
第240図	竪穴住居跡24号	258
第241図	竪穴住居跡24号	
	出土遺物	259
第242図	竪穴住居跡25号	260
第243図	竪穴住居跡25号 出土遺物	261
第244図	竪穴住居跡26号	262
第245図	竪穴住居跡26号 出土遺物	263
第246図	竪穴住居跡27号 遺物出土状況	263
第247図	竪穴住居跡27号・ 出土遺物	264
第248図	竪穴住居跡28号	265
第249図	竪穴住居跡29号	266
第250図	竪穴住居跡28号、29号 出土遺物	267
第251図	竪穴住居跡30号	268
第252図	竪穴住居跡30号 出土遺物	269
第253図	竪穴住居跡31号 遺物出土状況	269
第254図	竪穴住居跡31号・ 出土遺物	270
第255図	竪穴住居跡32号・ 出土遺物	271
第256図	竪穴住居跡33号 出土遺物	271
第257図	竪穴住居跡33号	272
第258図	竪穴住居跡34号	273
第259図	竪穴住居跡34号 出土遺物	274
第260図	竪穴住居跡35号 遺物出土状況	274
第261図	竪穴住居跡35号・ 出土遺物	275
第262図	竪穴住居跡36号・ 出土遺物	276
第263図	竪穴住居跡37号・ 出土遺物	277
第264図	竪穴住居跡38号・ 出土遺物	278
第265図	竪穴住居跡39号	279
第266図	竪穴住居跡39号 出土遺物①	280
第267図	竪穴住居跡39号 出土遺物②	281
第268図	竪穴住居跡40号・ 出土遺物	282
第269図	竪穴住居跡41号 出土遺物	283
第270図	竪穴住居跡41号	284
第271図	竪穴住居跡42号	285
第272図	竪穴住居跡42号 出土遺物	286
第273図	竪穴住居跡43号 遺物出土状況	286
第274図	竪穴住居跡43号・ 出土遺物	287
第275図	竪穴住居跡44号・ 出土遺物	288
第276図	竪穴住居跡45号 遺物出土状況	289
第277図	竪穴住居跡45号	290
第278図	竪穴住居跡45号 出土遺物	291
第279図	竪穴住居跡46号	292
第280図	竪穴住居跡46号 出土遺物	293
第281図	竪穴住居跡47号 遺物出土状況	293
第282図	竪穴住居跡47号・ 出土遺物	294
第283図	竪穴住居跡48号・ 出土遺物	295
第284図	竪穴住居跡49号・ 出土遺物	296
第285図	竪穴住居跡50号	297
第286図	竪穴住居跡50号 出土遺物	298
第287図	竪穴住居跡51号・ 出土遺物	299
第288図	竪穴住居跡52号・ 出土遺物	300
第289図	竪穴住居跡53号・ 出土遺物	301
第290図	竪穴住居跡54号	302
第291図	竪穴住居跡54号 出土遺物	303
第292図	竪穴住居跡54号 出土遺物	304
第293図	竪穴住居跡55号・ 出土遺物	304
第294図	竪穴住居跡56号 遺物出土状況	305
第295図	竪穴住居跡56号・ 出土遺物①	306
第296図	竪穴住居跡56号出土遺物②、 57・58号出土遺物	307
第297図	竪穴住居跡57号・58号	308
第298図	竪穴住居跡59号 遺物出土状況	309
第299図	竪穴住居跡59号	310
第300図	竪穴住居跡59号 出土遺物	311
第301図	竪穴住居跡60号	312
第302図	竪穴住居跡60号・ 遺物出土状況	313
第303図	竪穴住居跡61号 遺物出土状況	313
第304図	竪穴住居跡61号・ 出土遺物	314

第305図	竪穴住居跡62号・ 出土遺物	315
第306図	竪穴住居跡62号 出土遺物	316
第307図	竪穴住居跡62号	317
第308図	竪穴住居跡間接合 状況図	318
第309図	竪穴住居跡63号 遺物出土状況	318
第310図	竪穴住居跡63号 出土遺物	319
第311図	竪穴住居跡63号	320
第312図	竪穴住居跡64号 遺物出土状況	321
第313図	竪穴住居跡64号 出土遺物	322
第314図	竪穴住居跡64号	323
第315図	竪穴住居跡65号	324
第316図	竪穴住居跡65号 出土遺物	325
第317図	竪穴住居跡66号	326
第318図	竪穴住居跡66号 出土遺物	327
第319図	竪穴住居跡67号・ 出土遺物	327
第320図	竪穴住居跡68号	328
第321図	竪穴住居跡68号 出土遺物	329
第322図	竪穴住居跡69号・ 出土遺物	330
第323図	竪穴住居跡70号	331
第324図	竪穴住居跡70号 出土遺物	332
第325図	竪穴住居跡71号・ 出土遺物	333
第326図	竪穴住居跡71号	334
第327図	竪穴住居跡72号, 73号・ 出土遺物	335
第328図	竪穴住居跡73号	336
第329図	竪穴住居跡74号 遺物出土状況	337
第330図	竪穴住居跡74号	338
第331図	竪穴住居跡74号 出土遺物①	339
第332図	竪穴住居跡74号 出土遺物②	340
第333図	竪穴住居跡75号・ 出土遺物①	341
第334図	竪穴住居跡75号 出土遺物②	342
第335図	竪穴住居跡76号	342
第336図	竪穴住居跡77号	343
第337図	竪穴住居跡77号 出土遺物	344
第338図	竪穴住居跡78号	
	遺物出土状況	344
第339図	竪穴住居跡78号・ 出土遺物	345
第340図	竪穴住居跡79号 遺物出土状況	346
第341図	竪穴住居跡79号	347
第342図	竪穴住居跡79号 出土遺物	348
第343図	竪穴住居跡80号・ 出土遺物①	349
第344図	竪穴住居跡80号・ 出土遺物②	350
第345図	竪穴住居跡81号・ 出土遺物	351
第346図	竪穴住居跡82号	352
第347図	竪穴住居跡82号 出土遺物	353
第348図	竪穴住居跡83号 遺物出土状況	353
第349図	竪穴住居跡83号・ 出土遺物	354
第350図	竪穴住居跡84号 出土遺物	354
第351図	竪穴住居跡84号	355
第352図	竪穴住居跡85号・ 出土遺物①	356
第353図	竪穴住居跡85号 出土遺物②	357
第354図	竪穴住居跡85号 出土遺物③	358
第355図	竪穴住居跡85号・ 出土遺物④	359
第356図	竪穴住居跡86号・ 出土遺物①	360
第357図	竪穴住居跡86号・ 出土遺物②	361
第358図	竪穴住居跡86号 出土遺物③	362
第359図	竪穴住居跡87号 遺物出土状況	362
第360図	竪穴住居跡87号・ 出土遺物	363
第361図	竪穴住居跡88号・ 出土遺物	364
第362図	竪穴住居跡88号	365
第363図	竪穴住居跡89号・ 出土遺物	366
第364図	竪穴住居跡90号	367
第365図	竪穴住居跡90号 出土遺物	368
第366図	竪穴住居跡91号・ 出土遺物	369
第367図	竪穴住居跡92号, 93号	370
第368図	埋設土器出土状況・ 出土遺物	371
第369図	土坑11号	372
第370図	土坑12号, 1号, 3号	373
第371図	土坑4号, 9号, 5号, 14号, 15号, 23号	374
第372図	土坑24号, 6号, 7号, 13号, 20号, 22号	375
第373図	土坑19号, 16号, 28号, 21号, 26号	376
第374図	土坑25号, 27号	377
第375図	土坑8号, 17号, 18号, 2号	378
第376図	土坑10号・土坑 出土遺物①	379
第377図	土坑出土遺物②	380
第378図	包含層遺物出土状況①	382
第379図	包含層遺物出土状況②	383
第380図	包含層出土遺物①	384
第381図	包含層出土遺物②	385
第382図	包含層出土遺物③	386
第383図	包含層出土遺物④	387
第384図	包含層出土遺物⑤	388
第385図	包含層出土遺物⑥	389
第386図	包含層出土遺物⑦	390
第387図	遺構配置図①	392
第388図	遺構配置図②	393
第389図	掘立柱建物跡・出土遺物, 土坑1~3号	394
第390図	土坑1, 2号出土遺物	395
第391図	土坑3号出土遺物	396
第392図	包含層遺物出土状況①	397
第393図	包含層遺物出土状況②	398
第394図	移動式竈の復元図	399
第395図	包含層出土遺物①	400
第396図	包含層出土遺物②	401
第397図	包含層出土遺物③	402
第398図	包含層出土遺物④	404
第399図	包含層出土遺物⑤	405
第400図	包含層出土遺物⑥	406
第401図	中世・近世 遺構配置図(1)	408
第402図	中世・近世 遺構配置図(2)	409
第403図	中世・近世 遺構配置図(3)	410
第404図	中世・近世 遺構配置図(4)	411
第405図	中世・近世 遺構配置図(5)	412
第406図	中世・近世 遺構配置図(6)	413
第407図	中世・近世 遺構配置図(7)	414
第408図	中世・近世 遺構配置図(8)	415
第409図	中世・近世	

遺構配置図(9)	416	第442図 大型土坑3号 出土遺物	450	染付③	485
第410図 挖立柱建物跡1号	417	第443図 大型土坑4号 出土遺物	451	第477図 中世・近世遺物(8) 染付④	486
第411図 挖立柱建物跡2号	418	第444図 大型土坑5号 出土遺物①	452	第478図 中世・近世遺物(9) 陶器①	487
第412図 挖立柱建物跡 3号・4号	419	第445図 大型土坑5号 出土遺物②	453	第479図 中世・近世遺物(10) 陶器②	488
第413図 挖立柱建物跡 5号・6号	420	第446図 大型土坑5号 出土遺物③	454	第480図 中世・近世遺物(11) 陶器③	489
第414図 挖立柱建物跡 7号・8号	421	第447図 大型土坑5号 出土遺物④	455	第481図 中世・近世遺物(12) 陶器④	490
第415図 挖立柱建物跡 9号・10号	422	第448図 大型土坑5号 出土遺物⑤	456	第482図 中世・近世遺物(13) 陶器⑤	491
第416図 挖立柱建物跡 11号・12号	423	第449図 大型土坑5号 出土遺物⑥	457	第483図 中世・近世遺物(14) 陶器⑥	492
第417図 挖立柱建物跡13号	424	第450図 大型土坑5号 出土遺物⑦	458	第484図 中世・近世遺物(15) 陶器⑦	493
第418図 挖立柱建物跡14号	426	第451図 大型土坑6号 出土遺物	459	第485図 中世遺物(16)瓦質土器・ 土師質土器	494
第419図 坂穴建物跡1号・2号	427	第452図 大型土坑7号 出土遺物・8号	460	第486図 中世・近世遺物(17) 輪の羽口・鉄滓・ 鉄製品	495
第420図 坂穴建物跡3号 出土遺物	428	第453図 大型土坑8号 出土遺物	461	第487図 中世・近世遺物(18) 滑石製品	496
第421図 坂穴建物跡4号 出土遺物・5号	429	第454図 爐状遺構1号・ 2号・3号・4号	462	第488図 中世・近世遺物(19) 金床石	497
第422図 坂穴建物跡6号 出土遺物	430	第455図 爐状遺構4号出土遺物・ 5号・6号・7号	463	第489図 中世・近世遺物(20)砥石	498
第423図 坂穴建物跡7号 出土遺物	431	第456図 爐状遺構8号 出土遺物 9号・10号・11号	464	第490図 中世・近世遺物(21) 軽石製品・櫛・古錢	499
第424図 坂穴建物跡8号・9号 出土遺物	432	第457図 爐状遺構12号・13号・ 14号・15号・16号・17号・ 18号・19号	465	第491図 近代・現代 古道	500
第425図 坂穴建物跡10号 出土遺物①	433	第458図 溝内出土遺物①	466	第492図 腐植含量とリン酸含量の 相関	547
第426図 坂穴建物跡10号 出土遺物②	434	第459図 溝状遺構1号・2号・ 3号	467・468	第493図 植物珪酸体含量の 層位的变化	547
第427図 坂穴建物跡11号出土遺物・ 12号出土遺物	435	第460図 溝内出土遺物②	469	第494図 各試料の曆年較正図	551
第428図 坂穴建物跡13号	436	第461図 溝内出土遺物③	470	第495図 曆年較正①	551
第429図 建物状遺構1号 出土遺物	437	第462図 溝内出土遺物④	471	第496図 曆年較正②	552
第430図 建物状遺構2号出土遺物・ 3号出土遺物	438	第463図 溝内出土遺物⑤	472	第497図 曆年較正③	553
第431図 土坑1号・2号 出土遺物	439	第464図 溝内出土遺物⑥	473	第498図 曆年較正年代グラフ	555
第432図 土坑3号・4号・5号・ 6号	440	第465図 溝内出土遺物⑦	474	第499図 下鶴遺跡出土銅戈表面の 蛍光X線分析結果	557
第433図 土坑7号・8号・9号・ 10号	441	第466図 ピット内遺物①	475	第500図 下鶴遺跡出土 銅戈切っ先破片の蛍光X線 分析結果	557
第434図 土坑11号・12号・13号	442	第467図 ピット内遺物②	476	第501図 スペクトルチャート①	559
第435図 土坑14号・15号・16号・ 17号・18号 出土遺物	443	第468図 ピット内遺物③	477	第502図 スペクトルチャート②	559
第436図 土坑19号 出土遺物・20号 出土遺物・21号	444	第469図 ピット内遺物④	478	第503図 スペクトルチャート③	559
第437図 土坑22号・23号	445	第470図 中世遺物(1)土師器	479	第504図 蛍光X線分析結果	560
第438図 土坑24号・25号・26号・ 27号・28号・29号	446	第471図 中世遺物(2)青磁・白磁	480	第505図 蛍光X線分析結果①	562
第439図 大型土坑1号	447	第472図 中世遺物(3)青花①	481	第506図 蛍光X線分析結果②	563
第440図 大型土坑1号出土遺物・ 2号	448	第473図 中世遺物(4)青花②	482	第507図 土坑長軸方向及びA・B群 分布状況	565
第441図 大型土坑2号出土遺物	449	第474図 中世・近世遺物(5) 青花③・染付①	483	第508図 古い様相と新しい様相の 坂穴住居跡	566
		第475図 中世・近世遺物(6) 染付②	484	第509図 16世紀後半～17世紀の	
		第476図 中世・近世遺物(7)			

表 目 次

表 1 遺跡一覧表.....009	表51 古代遺物観察表(1).....534	表78 中世・近世遺構内 遺物観察表①.....539
表 2 石器分類表.....014	表52 古代遺物観察表(2).....535	表79 中世・近世遺構内 遺物観察表②.....539
表 3 石材分類表.....015	表53 古代遺物観察表(3).....536	表80 中世・近世遺構内 遺物観察表③.....539
表 4 組成表.....101	表54 古代遺物観察表(4).....536	表81 中世・近世遺構内 遺物観察表④.....539
表 5 繩文時代遺物観察表(1).....501	表55 中世・近世遺構内 遺物観察表(1).....536	表82 中世・近世遺構内 遺物観察表⑤.....540
表 6 繩文時代遺物観察表(2).....502	表56 中世・近世遺構内 遺物観察表(2).....536	表83 中世・近世遺構内 遺物観察表⑥.....540
表 7 繩文時代遺物観察表(3).....503	表57 中世・近世遺構内 遺物観察表(3).....537	表84 中世・近世遺構内 遺物観察表⑦.....540
表 8 繩文時代遺物観察表(4).....504	表58 中世・近世遺構内 遺物観察表(4).....537	表85 中世・近世遺構内 遺物観察表⑧.....540
表 9 繩文時代遺物観察表(5).....505	表59 中世・近世遺構内 遺物観察表(5).....537	表86 中世・近世遺構内 遺物観察表⑨.....540
表10 繩文時代遺物観察表(6).....506	表60 中世・近世遺構内 遺物観察表(6).....537	表87 中世・近世遺構内 遺物観察表⑩.....540
表11 繩文時代遺物観察表(7).....507	表61 中世・近世遺構内 遺物観察表(7).....537	表88 中世・近世遺構内 遺物観察表⑪.....540
表12 繩文時代遺物観察表(8).....508	表62 中世・近世遺構内 遺物観察表(8).....537	表89 中世・近世遺構内 遺物観察表⑫.....541
表13 繩文時代遺物観察表(9).....509	表63 中世・近世遺構内 遺物観察表(9).....537	表90 中世・近世遺構内 遺物観察表⑬.....541
表14 繩文時代遺物観察表⑩.....510	表64 中世・近世遺構内 遺物観察表⑩).....537	表91 中世・近世包含層遺物 観察表(1).....541
表15 繩文時代遺物観察表⑪.....511	表65 中世・近世遺構内 遺物観察表⑪).....538	表92 中世・近世包含層遺物 観察表(2).....541
表16 繩文時代遺物観察表⑫.....512	表66 中世・近世遺構内 遺物観察表⑫).....538	表93 中世・近世包含層遺物 観察表(3).....541
表17 繩文時代遺物観察表⑬.....513	表67 中世・近世遺構内 遺物観察表⑬).....538	表94 中世・近世包含層遺物 観察表(4).....542
表18 繩文時代遺物観察表⑭).....514	表68 中世・近世遺構内 遺物観察表⑭).....538	表95 中世・近世包含層遺物 観察表(5).....543
表19 繩文時代遺物観察表⑮).....515	表69 中世・近世遺構内 遺物観察表⑮).....538	表96 中世・近世包含層遺物 観察表(6).....543
表20 繩文時代遺物観察表⑯).....515	表70 中世・近世遺構内 遺物観察表⑯).....538	表97 中世・近世包含層遺物 観察表(7).....544
表21 繩文時代遺物観察表⑰).....515	表71 中世・近世遺構内 遺物観察表⑰).....538	表98 中世・近世包含層遺物 観察表(8).....544
表22 繩文時代遺物観察表⑱).....516	表72 中世・近世遺構内 遺物観察表⑱).....539	表99 中世・近世包含層遺物 観察表(9).....544
表23 繩文時代遺物観察表⑲).....517	表73 中世・近世遺構内 遺物観察表⑲).....539	表100 中世・近世包含層遺物 観察表⑩).....544
表24 繩文時代遺物観察表⑳).....518	表74 中世・近世遺構内 遺物観察表⑳).....539	表101 土壤理化学分析結果.....546
表25 繩文時代遺物観察表㉑).....519	表75 中世・近世遺構内 遺物観察表㉑).....539	表102 花粉分析結果.....547
表26 繩文時代遺物観察表㉒).....520	表76 中世・近世遺構内 遺物観察表㉒).....539	表103 植物珪酸体含量.....548
表27 弥生時代遺物観察表(1).....520	表77 中世・近世遺構内 遺物観察表㉓).....539	表104 測定試料及び処理.....550
表28 弥生時代遺物観察表(2).....520		
表29 弥生時代遺物観察表(3).....521		
表30 弥生時代遺物観察表(4).....522		
表31 弥生時代遺物観察表(5).....522		
表32 弥生時代遺物観察表(6).....522		
表33 弥生時代遺物観察表(7).....522		
表34 古墳時代遺物観察表(1).....522		
表35 古墳時代遺物観察表(2).....523		
表36 古墳時代遺物観察表(3).....524		
表37 古墳時代遺物観察表(4).....525		
表38 古墳時代遺物観察表(5).....526		
表39 古墳時代遺物観察表(6).....527		
表40 古墳時代遺物観察表(7).....528		
表41 古墳時代遺物観察表(8).....529		
表42 古墳時代遺物観察表(9).....530		
表43 古墳時代遺物観察表(10).....531		
表44 古墳時代遺物観察表(11).....532		
表45 古墳時代遺物観察表(12).....532		
表46 古墳時代遺物観察表(13).....532		
表47 古墳時代遺物観察表(14).....532		
表48 古墳時代遺物観察表(15).....533		
表49 古墳時代遺物観察表(16).....534		
表50 古墳時代遺物観察表(17).....534		

表105 放射性炭素年代測定及び 暦年較正の結果	550
表106	554

表107	554
表108 中世・近世遺物分類	570
表109 肥前磁器器種別	570

表110 肥前陶器器種別	570
--------------	-----

図版目次

図版1 下鶴遺跡近景	573
図版2 土層断面 ①K・L-15区 ②③E-24区 ④F-16区	574
図版3 ①K-M-22・23区 ②J-L-6~9区	575
図版4 ①遺物出土状況 ②調査区近景	576
図版5 作業風景等	577
図版6 繩文堅穴住居1号	578
図版7 繩文堅穴住居2号	579
図版8 繩文堅穴住居3号	580
図版9 繩文堅穴住居4号	581
図版10 ①縄文土坑17号 ②~④縄文土坑21号 ⑤・⑥縄文土坑22号	582
図版11 ①~③縄文土坑23号 ④~⑥縄文土坑24号	583
図版12 ①~③縄文土坑25号 ④・⑤縄文土坑31号 ⑥縄文土坑34号	584
図版13 ①縄文土坑1号 ②~④弥生土坑19号	585
図版14 ①弥生土坑4・5号 ②・③弥生土坑6号 ④~⑩弥生土坑 7・8・9・11号 ⑦弥生土坑10号	586
図版15 ①弥生土坑12号 ②弥生土坑13号 ③弥生土坑14号 ④弥生土坑15号 ⑤~⑧弥生土坑16号	587
図版16 ①~③弥生土坑17号 ④~⑦弥生土坑18号 ⑧弥生土坑19号	588
図版17 ①・②弥生土坑19号 ③弥生土坑20号 ④~⑦弥生土坑21号	589
図版18 ①~③弥生土坑22号 ④・⑤弥生土坑23号	590
図版19 ①弥生土坑24・25・27号 ②弥生土坑26号 ③・④弥生土坑24号 ⑤弥生土坑25号 ⑥弥生土坑27号 ⑦弥生土坑29号	591
図版20 ①・②弥生土坑32号 ③・④弥生土坑34号	592

図版21 ①・②弥生土坑35号 ③弥生土坑36号 ④弥生土坑37号 ⑤・⑥弥生土坑38号	593
図版22 ①~③弥生土坑39号 ④~⑥弥生土坑40号	594
図版23 ①・②弥生土坑42号 ③・④弥生土坑43号 ⑤弥生土坑44号 ⑥弥生土坑46号 ⑦弥生土坑44・45・46号 ⑧弥生土坑47号	595
図版24 ①・②弥生土坑47号内遺物 ③~⑥弥生土坑48号	596
図版25 ①~④弥生土坑49号 ⑤~⑦弥生土坑50号	597
図版26 ①~③古墳住居1号 ④~⑥古墳住居2号	598
図版27 ①~③古墳住居3号 ④古墳住居3・4号 ⑤~⑦古墳住居4号	599
図版28 ①古墳住居 5・6・7・9号検出 ②古墳住居5・6・ 7・9号切り合 ③古墳住居5号検出 ④古墳住居6・8号 切り合 ⑤古墳住居 8・9号切り合 ⑥古墳住居8号内 遺物出土状況 ⑦古墳住居10・11号 ⑧古墳住居12号	600
図版29 ①~④古墳住居13号 ⑤古墳住居14号 ⑥古墳住居 15・16・17号	601
図版30 ①~④古墳住居17号	602
図版31 ①・②古墳住居18号 ③~⑤古墳住居19号	603
図版32 ①~④古墳住居20号 ⑤古墳住居21号 ⑥古墳住居22号 ⑦・⑧古墳住居23号	604
図版33 ①・②古墳住居23号 ③~⑥古墳住居24号 ⑦・⑧古墳住居25号	605
図版34 ①・②古墳住居25号	
③~⑤古墳住居26号 ⑥・⑦古墳住居27号	606
図版35 ①~④古墳住居28号 ⑤~⑧古墳住居29号	607
図版36 ①~③古墳住居30号 ④古墳住居31号 ⑤~⑦古墳住居33号	608
図版37 ①・②古墳住居34号 ③~⑦古墳住居35号	609
図版38 ①~③古墳住居36号 ④~⑦古墳住居37号	610
図版39 ①~③古墳住居38号 ④・⑤古墳住居39号	611
図版40 ①古墳住居41号 ②~④古墳住居42号 ⑤古墳住居43号 ⑥古墳住居44号 ⑦・⑧古墳住居45号	612
図版41 ①~④古墳住居46号 ⑤古墳住居47号 ⑥古墳住居48号 ⑦・⑧古墳住居49号	613
図版42 ①・②古墳住居49号 ③・④古墳住居50号 ⑤古墳住居52号 ⑥古墳住居53号 ⑦・⑧古墳住居54号	614
図版43 ①古墳住居54号 ②古墳住居55号 ③・④古墳住居56号 ⑤・⑥古墳住居57・58号 ⑦古墳住居59号 ⑧古墳住居59号内炉	615
図版44 ①古墳住居60号 ②古墳住居60号内炉 ③古墳住居61・62号 ④古墳住居62号 ⑤古墳住居61号 ⑥~⑧古墳住居62号	616
図版45 ①古墳住居63号 ②古墳住居63号内炉 ③・④古墳住居64号 ⑤古墳住居65号	617
図版46 ①~④古墳住居66号 ⑤古墳住居67号 ⑥古墳住居68号 ⑦・⑧古墳住居70号	618
図版47 ①~③古墳住居74号 ④古墳住居78号	

⑤・⑥古墳住居79号	③～④竪穴建物跡 3号	図版65 構状遺構
⑦古墳住居79号遺物	⑦竪穴建物跡 4号	図版66 縄文時代の遺物(1)
出土状況	⑧竪穴建物跡 5号	図版67 縄文時代の遺物(2)
図版48 ①～④古墳住居79号	①～④竪穴建物跡 6号	図版68 縄文時代の遺物(3)
⑤～⑦古墳住居80号	⑤竪穴建物跡 7号	図版69 縄文時代の遺物(4)
⑥古墳住居82号	⑥～⑧竪穴建物跡 8号	図版70 縄文時代の遺物(5)
図版49 ①古墳住居83号	⑨竪穴建物跡 9号	図版71 縄文時代の遺物(6)
②古墳住居84号	⑩竪穴建物跡10号	図版72 縄文時代の遺物(7)
③・④・⑥古墳住居85号	⑪竪穴建物跡11号	図版73 縄文時代の遺物(8)
⑤古墳住居85号を切る	⑫竪穴建物跡12号	図版74 縄文時代の遺物(9)
大型土坑5号内の	⑬竪穴建物跡13号	図版75 縄文時代の遺物(10)
古錢	⑭建物状遺構 1	図版76 縄文時代の遺物(11)
図版50 ①～③古墳住居86号	⑮・⑯土坑25号	図版77 縄文時代の遺物(12)
④・⑤古墳住居87号	⑰・⑯土坑26号	図版78 弥生時代の遺物(1)
⑥古墳住居88号	⑰・⑯土坑27号	図版79 弥生時代の遺物(2)
図版51 ①～③古墳住居89号	⑱・⑲大型土坑 2号	図版80 弥生時代の遺物(3)
④～⑥古墳住居90号	⑳大型土坑 4号	図版81 弥生時代の遺物(4)
⑦・⑧古墳住居91号	㉑大型土坑 6号	図版82 古墳時代の遺物(1)
図版52 ①古墳住居91号	㉒・㉓大型土坑 7号	図版83 古墳時代の遺物(2)
②古墳住居92号	㉔・㉕大型土坑 8号	図版84 古墳時代の遺物(3)
③～⑤古墳住居93号	㉖炉 1号	図版85 古墳時代の遺物(4)
図版53 ①～④古墳土坑11号	㉗炉 3・4号	図版86 古墳時代の遺物(5)
⑥古墳土坑12号	㉘炉 5号	図版87 古墳時代の遺物(6)
図版54 ①古墳土坑23・24号	㉙炉 10号	図版88 古墳時代の遺物(7)
②～④埋設土器	㉚炉 7号	図版89 古墳時代の遺物(8)
図版55 ①古代土坑1号	㉛・㉜炉 7号	図版90 古代の遺物(1)
②～④古代土坑2号	㉝炉 8号	図版91 古代の遺物(2)
⑤～⑦古代土坑3号	㉞・㉟炉 11号	図版92 中世・近世の遺物(1)
図版56 ①掘立柱建物14号	㉛・㉜炉 12号	図版93 中世・近世の遺物(2)
②竪穴建物跡1号	㉛・㉜炉 13号	図版94 中世・近世の遺物(3)
③～⑤竪穴建物跡2号	㉛・㉜炉 14号	図版95 中世・近世の遺物(4)
図版57 ①・②竪穴建物跡2号	㉛・㉜炉 15号	図版96 中世・近世の遺物(5)

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

平成18年7月、薩摩地方北部を記録的な豪雨が襲った。特に川内川流域は県境を越えたえびの地区から河口の川内地区まで多大な被害を受ける災害となった。同年10月には、川内川激甚灾害対策特別緊急事業（平成18～22年度の5か年）が採択され、復興へのスタートを切ることとなった。

鹿児島県教育委員会は、文化財の保護・活用を図るために、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取扱いについて協議し、諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき、同年11月、国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所（以下、川内川河川事務所）は、川内川激甚灾害対策特別緊急事業に先立って、事業対象地（41か所）内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下、県文化財課）に照会した。

この計画に伴い県文化財課は、平成18年12月に川内川流域の湧水町・菱刈町・大口市・さつま町・薩摩川内市の埋蔵文化財分布調査を実施し、18か所について埋蔵文化財調査が必要であることが明らかとなった。

この結果をもとに、平成19年2月には国土交通省川内川河川事務所から県文化財課へ埋蔵文化財調査対象地の試掘調査実施が依頼され、同月の下ノ原B遺跡（旧大口市）の調査を皮切りに、調査着手の条件が揃ったところから試掘調査を進めることとなった。

下鶴遺跡の試掘調査は、県文化財課が県立埋蔵文化財センター（以下埋文センター）及び大口市教育委員会（現伊佐市教育委員会）の協力を得て、平成20年10月9日と10日の2日間実施した。その結果、36,600m²について遺跡の存在が明らかとなった。このことを受けて、再度3者で協議を行った結果、設計変更等が不可能なことなどから本調査を実施することとなった。

本調査は、埋文センターが担当し、平成21年度に実施することとした。まず調査は、調査対象地内の築堤部分を優先的に調査することとし、また、平成20年度に試掘調査が実施出来なかった部分についても補充の試掘調査を実施することとした。その結果、最終的な本調査対象面積は40,400m²となり、平成20年度調査予定箇所の一部は平成21年度に実施することとなった。

平成21年度の調査は平成21年5月8日から平成22年3月25日にかけて実施し、平成22年度の調査は、平成22年6月1日から7月27日まで実施した。これらの調査の結果、縄文時代早期から近世に至るまでの遺構・遺物等が発見された。

報告書作成作業は、平成21年度中に一部の水洗い・注記等の基礎整理を行い、平成22年度に本格的に実施した。

第2節 事前調査

1 分布調査

分布調査は、平成18年12月19日に大口市・菱刈町・湧水町の1市2町を対象に実施した。

調査体制

事業主体	国土交通省九州地方整備局 川内川河川事務所	中尾 理
調査主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調査統括	鹿児島県教育庁文化財課 課長 課長補佐 主任文化財主事兼 埋蔵文化財係長	前原 浩一 青崎 和憲
調査企画	鹿児島県教育庁文化財課 文化財主事	前迫 亮一
調査協力	大口市教育委員会 主査 中村 守男 主査 柿川 幸司	

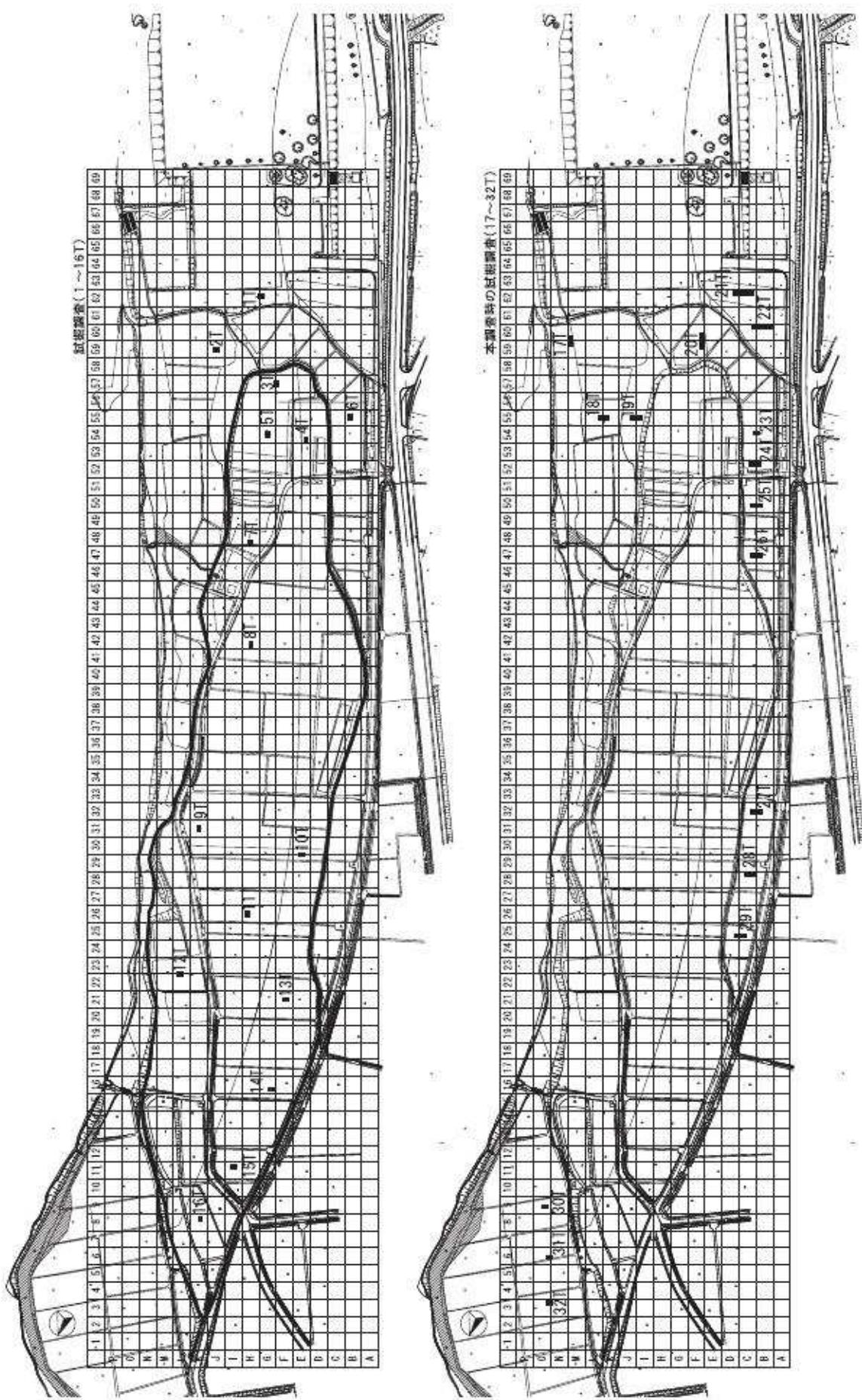
2 試掘調査

試掘調査は、平成20年10月9日と10日の2日間実施した。調査は、対象地に16箇所のトレンチを設定し、小型バックホーと人力で掘り下げを進めていった。その結果、12箇所のトレンチで遺構・遺物が確認され、本調査対象面積は約36,600m²（第1図上の太線の範囲）となかった。

調査体制

事業主体	国土交通省九州地方整備局 川内川河川事務所	有川 昭人
調査主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調査統括	鹿児島県教育庁文化財課 課長 課長補佐 文化財主事兼 埋蔵文化財係長	福山 徳治
調査担当	鹿児島県教育庁文化財課 文化財主事	堂込 秀人
調査協力	県立埋蔵文化財センター 調査第一課長 主任文化財主事兼 調査第一課第一調査係長 大口市教育委員会 主査 中村 守男 主査 柿川 幸司	前迫 亮一
立会者	川内川河川事務所 菱刈出張所 技術係長	青崎 和憲 井ノ上秀文 仁田原公亮

第1図 トレンチ配置図



第3節 本調査

1 平成21年度

事業主体 国土交通省九州地方整備局
川内川河川事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

調査統括 県立埋蔵文化財センター

所長 山下 吉美
調査企画 次長兼総務課長 斎藤 守重
次長兼南の縄文調査室長 青崎 和憲
調査第一課長 中村 耕治
主任文化財主事兼
調査第一課第二調査係長 宮田 栄二
調査担当 文化財主事 木之下悦朗(9月~)
久保田昭二(9月~)
廣 栄次(11月~)
有馬 孝一(11月~)
羽嶋 敦洋(11月~)
新中なるみ
黒川 忠広
福園 慶明(9月~)
福原 誠也

調査事務 総務係長 紙屋 伸一
調査指導 九州大学総合研究博物館
副館長 岩永 省三
鹿児島大学法文学部
教授 森脇 広

2 平成22年度

事業主体 国土交通省九州地方整備局
川内川河川事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

調査統括 県立埋蔵文化財センター

所長 山下 吉美
調査企画 次長兼総務課長 田中 明成
次長兼南の縄文調査室長 中村 耕治
調査第一課長 長野 真一
文化財主事兼
調査第一課第二調査係長 八木澤一郎

調査担当 文化財主事 有馬 孝一
福原 誠也
調査事務 総務係長 大園 祥子

3 平成22年度 報告書作成

事業主体 国土交通省九州地方整備局
川内川河川事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

調査統括 県立埋蔵文化財センター

所長 山下 吉美
調査企画 次長兼総務課長 田中 明成
次長兼南の縄文調査室長 中村 耕治
調査第一課長 長野 真一
文化財主事兼
調査第一課第二調査係長 八木澤一郎
調査担当 文化財主事 吉岡 康弘
有馬 孝一
新中なるみ
黒川 忠広
福原 誠也
文化財研究員 益山 郁恵
調査事務 総務係長 大園 祥子
調査指導 鹿児島大学
准教授 本田 道輝
教授 渡辺 芳郎
肥後考古学会
副会長 富田 純一
佐賀県立九州陶磁文化館
特別学芸顧問 大橋 康二

第4節 調査の経過

調査の経過については、日誌抄を年度ごと及び月ごとに集約して記載する。

平成21年度

5月

8日調査開始。表土剥ぎ、プレハブ設置、重機、ベルコン搬入。調査開始に伴う作業員オリエンテーション、1T~4T設置、掘り下げ。主な調査区B-40~45区、C~D-40~53区、E~F-42~52区。遺物取り上げ(1~1460)

6月

主な調査区B-39~44区、C-33~37区、39~46区、D-33~37区、39~46区、52~55区、E-33~37区、43~45区、52~55区、F-33~37区、G-41~44区。遺物取り上げ(1461~3865)

7月

主な調査区B-37~39区、42~44区、C~F-27~31区、37~39区、42~51区、G~I-28~35区、41~46区、J-41~46区。遺物取り上げ(3866~4128)

8月

4日霧島市文化財少年団発掘体験37名。主な調査区B~D-34~51区、E-17~20区、34~51区、F~G-17~20区、37~51区、H-17~20区、30~31区、I~J-あ30~31区、44~46区。遺物取り上げ(4129~4472)羽月小6年生3名遺跡見学。

9月

主な調査区 C - 45~46区, 50~52区, D ~ G - 25~28区, 43~57区, H ~ I - 43~57区, 遺物取り上げ (4473~6850)。

10月

主な調査区 D ~ H - 12~31区, I ~ J - 6~15区, K ~ L - 6~15区, 21~31区, K ~ M - 16~21区。6日調査区の一部引き渡し (築堤部分の38~55区4,300m²)。22日銅戈出土。30日羽月小5年生発掘体験。遺物取り上げ (6851~12969)

11月

主な調査区 E ~ F - 15~29区, G ~ H - 15~25区。10~11日岩永省三氏現地指導。12日本田道輝氏現地指導。12日大口南中3年生発掘体験実施 (50名)。19日記者発表。28日現地説明会実施 (360名来跡)。遺物取り上げ (12970~16300)

12月

主な調査区 C ~ D - 31~33区, E ~ H - 15~26区, 40~58区, I ~ 40~45区, J ~ M - 16~23区。2日大口南中2年生発掘体験実施 (54名)。16日大口南中1年生発掘体験実施 (53名)。遺物取り上げ (16301~19100)

1月

主な調査区 E - 33~37区, 49~58区, F ~ H - 10~27区, 49~58区, I ~ J - 10~27区, 33~40区, K ~ L - 16~21区, 36~27区。5日調査区の一部引き渡し (築堤部分の24~37区3,200m²)。20日空中写真撮影。遺物取り上げ (19101~21878)

2月

主な調査区 E ~ F - 50~58区, G ~ H - 22~32区, 50~58区, I ~ L - 15~35区, M - 20~21区。18日調査区の一部引き渡し (築堤部分の12~23区3,700m²)。遺物取り上げ (21879~25802)

3月

主な調査区 E - 50~57区, F - 48~57区, G - 47~57区, H - 44~57区, I - 19~22区, 36区, 44~50区, J ~ L - 15~24区。9日森脇広氏現地指導。17日空中写真撮影 (2回目)。遺物取り上げ (25803~26153)。25日調査終了。調査終了38,800m²の引き渡し (この内11,200m²は引き渡し済み)。

平成22年度

6月

1日作業開始。主な調査区 I ~ J - 4~21区, H ~ I - 45~49区。遺物取り上げ (26154~26177)

7月

遺構検出・実測作業。土層断面写真撮影および実測。13日下流側調査区引き渡し協議。26日上流側調査区引

き渡し協議。27日調査終了。

第5節 整理作業の経緯

整理作業は、平成21・22年度に実施した。大まかな整理作業及び報告書作成作業の経緯は次の通りである。

平成21年度・・水洗い・注記

平成22年度・・水洗い・注記・接合・復元・実測・編集

1月報告書作成指導委員会 中村次長他3名

1月報告書作成検討委員会 山下所長他8名



現地指導の様子



記者発表の様子



現地説明会の様子

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

下鶴遺跡は、伊佐市大口下殿字下鶴に所在し、羽月川右岸の標高約171mの河岸段丘に立地する。遺跡のすぐ横を流れる羽月川は川内川の支流の1つで、遺跡の南300mの地点で川内川に合流する。この合流地点は、明治年間に発行された地図によると現在よりも北側にあり、戦後大規模な河川改修が行われて現在に至っていることがわかる。

遺跡の所在する伊佐市は、鹿児島市から北へ約75kmの本県北部に位置する市で、2008年（平成20年）11月1日に大口市と伊佐郡菱刈町が合併して発足した。伊佐米の名で知られる県内屈指の米どころであり、金の産出で世界でも有数の高品位を誇る菱刈鉱山がある市でもある。市の北側は、熊本県水俣市と人吉市、東側は宮崎県えびの市に接する県境の市で、大口盆地に位置している。

この大口盆地は、伊佐盆地あるいは伊佐平野とも呼ばれ、西部、北部、東部を肥薩火山群、南部を北薩火山群に囲まれ、盆地面積は140㎢で鹿児島県で最も広い盆地である。大口盆地は、内陸の盆地であるため冬場は最低気温が氷点下になることも多く、「鹿児島県の北海道」とも言われている。

盆地北部から南部へ羽月川が縱断し、盆地南部を東から西へ横断する川内川に合流する。盆地周囲には河岸段丘が分布しており、本遺跡もこの河岸段丘上に位置している。南部にはシラス台地がみられる。

地質は、基盤となる四万十層群の上に肥薩火山群や北薩火山群の噴出物が重なり、更に約33万年前に噴出した加久藤カルデラの溶結凝灰岩や、約25,000年前に姶良カルデラから噴出した入戸火砕流によるシラスが積み重なっている。

伊佐市及び周辺の特徴としては、黒曜石の原産地が複数確認されている点であろう。日東や上青木といった地域が著名であるが、各河川においても転石の採集が可能であり、当遺跡に接する羽月川も例外ではない。

第2節 歴史的環境

伊佐市の考古学研究の第一歩は、早稲田大学文学部史学科を卒業後旧制大口中学に赴任した木村幹夫氏と、九州大学医学部を卒業し旧大口市で開業していた寺師見國氏によって開始された。両氏の活動により、早くから伊佐市では、旧石器時代から歴史時代に至るまでの様々な時代の遺跡が発見されている。以下に、時代ごとの概要を述べる。

旧石器時代では、小野原遺跡・日東遺跡・郡山遺跡・

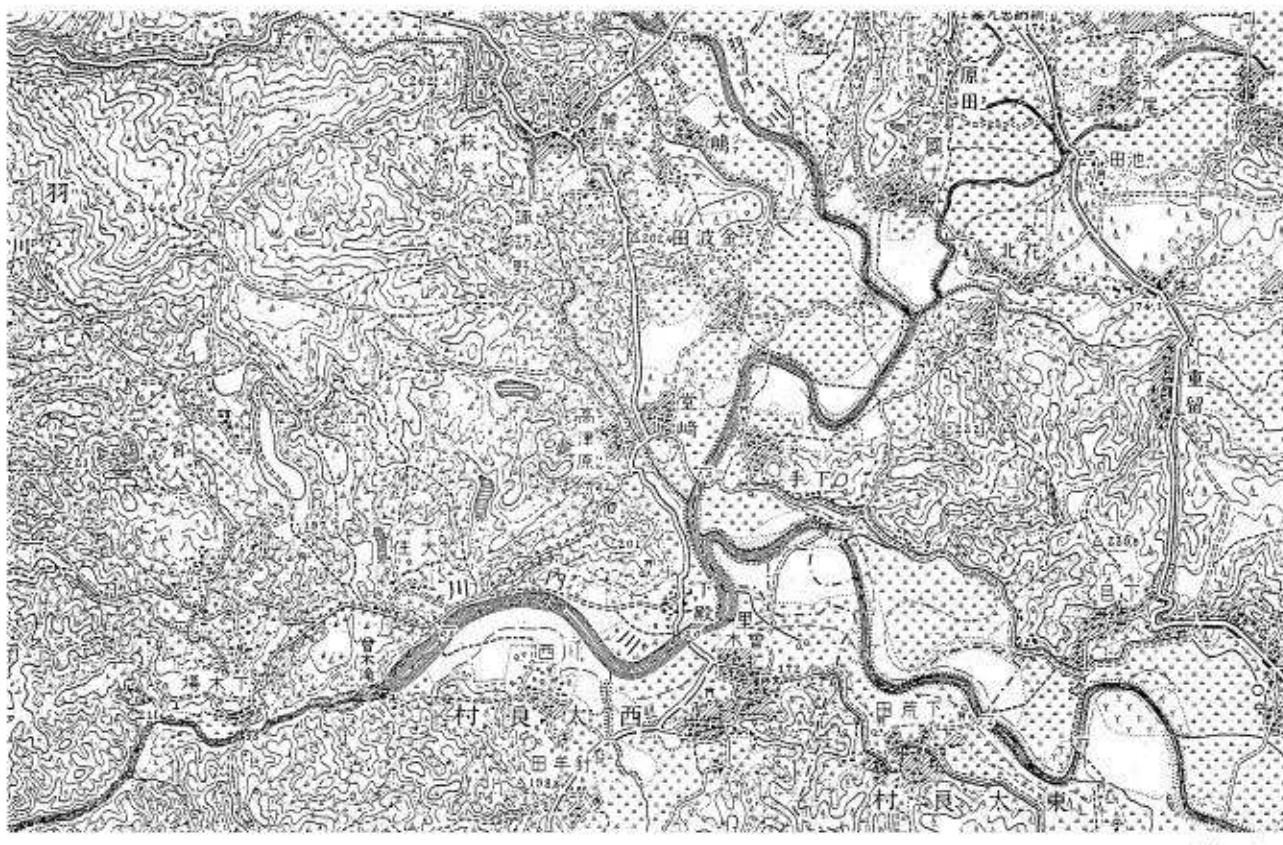
戸切谷遺跡からナイフ形石器が、松尾山遺跡・新聞原遺跡から細石器が発見されている。

縄文時代草創期の遺跡は、市内ではまだ発見されていない。縄文時代早期の遺跡には、手向山式土器の標式遺跡である手向山遺跡や、ラッパ状に開く口縁部と円筒状の胴部に撚糸文系の文様（A式）や貝殻文系の文様（B式）を施す塞ノ神式土器の標式遺跡である塞ノ神遺跡がある。前期の遺跡として、以前日勝山式土器と呼ばれていた曾畠式土器第三類が出土した日勝山遺跡がある。中期の遺跡には、並木式土器の標式遺跡である並木遺跡がある。並木式土器は、九州東部をのぞくほぼ九州全域に分布しており、胎土に滑石粉末を含むものが多い。松美堂遺跡では、春日式土器や阿高式土器、船元系土器などの土器とともに、独鉛状石器が出土している。後期の遺跡では、下殿瀬ノ上遺跡がある。大牟田遺跡は下殿瀬ノ上遺跡の山手に隣接する遺跡で、土器だまりから多数の西平式土器が出土するとともに、サメ歯状の石製垂飾品や注口土器が出土している。晩期の遺跡では、下殿瀬ノ上遺跡では埋設土器が検出されている。

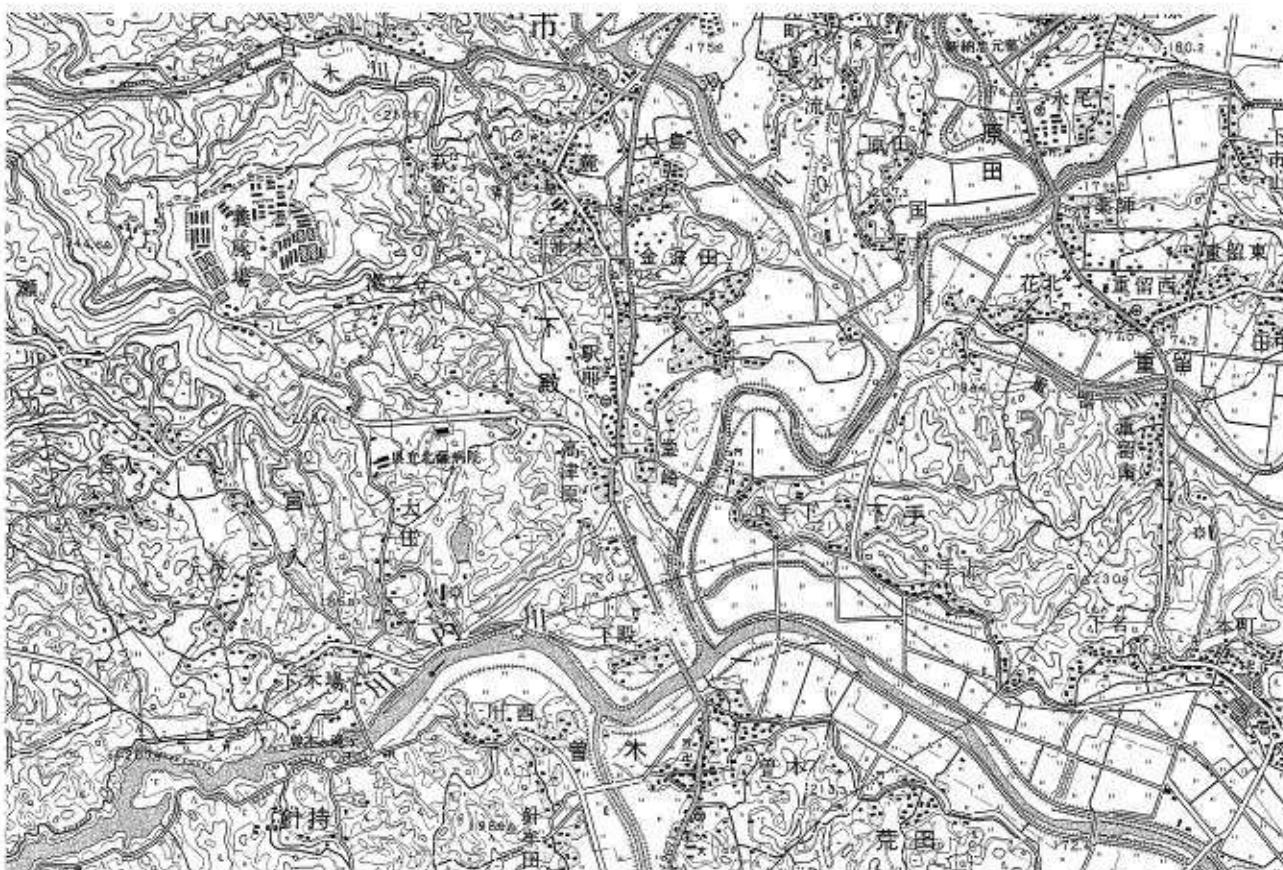
弥生時代の遺跡には、竪穴住居跡3軒と土坑墓が23基検出された前畑遺跡がある。土坑墓は、その形態などから、箱式木棺墓・組合箱式木棺墓・組合箱式石棺墓・土坑墓の4形態が考えられている。他にも里町遺跡・大住遺跡・焼山遺跡があり、重弧文と呼ばれる半円文で飾られた免田式土器が出土している。また、石庖丁や磨製石鎌、抉入石斧などが市内から見つかっている。

古墳時代の遺跡には、平田遺跡や瀬ノ上遺跡、地下式板石積石室墓が34基確認されて市の史跡公園となっている大住遺跡、90基以上の地下式板石積石室墓が現地保存されている焼山遺跡、3体の人骨が発見された諏訪野地下式横穴墓などがある。また、鳥巡遺跡・米置遺跡・山下遺跡からは、竪穴住居跡が1軒ずつ検出されている。

古代に伊佐・大口という地名は見られないが、『続日本紀』天平勝宝7年（755年）5月の条に「大隅国菱刈村浮浪九百卅余人言す。郡家を建てんことを欲すと。詔して之を許す。」とあり、奈良時代に菱刈郡は成立したことが分かっている。10世紀前半につくられた『倭名類聚抄』には、平安時代の菱刈郡は「比志加里」と記され、羽野・亡野・大水・菱刈の4郷からなるとある。この頃の遺跡として、鳥巡遺跡や永峰遺跡、山下遺跡があり、土師器の甕・椀・壺や黑色土器、須恵器などが出土している。津栗野遺跡・岡野遺跡・大迫遺跡では、人形・馬形の形代を須恵器など入れて埋納しており祭祀遺跡として考えられている。この地域は県内でも多くの蔵骨器が



明治37年



第2図 周辺地形の移り変わり (1/50,000)

平成4年

発見されており、仏教文化が比較的浸透していたことが推察される。また、北薩地域に集中する傾向が窺える土師器の高台に体部と異なる赤色粘土を用いた土師器が、多数出土している大峰遺跡がある。さらに、岡野古窯跡群では須恵器窯跡が4基確認されている。

中世前半になると、菱刈郡は太良院（本城・馬越・湯之尾・曾木）と牛屎院（牛山・入山・羽月・平泉・山野）の両院となった。ほぼ旧大口市にあたる地域は牛屎氏により支配される牛屎院に、ほぼ旧菱刈町にあたる地域は菱刈氏により支配される太良院になる。ほぼ全域が島津莊となつた薩摩国にあって、牛屎院・太良院両院とも島津莊「寄郡」となっている。

中世前半の遺跡には、新平田遺跡・馬場A遺跡・年ノ宮遺跡がある。新平田遺跡では、30棟の掘立柱建物跡・7軒の方形堅穴建物跡・柱列などが発見されている。遺物として12世紀後半から14世紀代の輸入陶磁器と、須恵器、常滑焼、櫛万丈窯産の須恵器に類似した壺・壺、滑石製石鍋、硯、馬具・釘等の鉄製品が出土している。馬場A遺跡からは、掘立柱建物跡や土坑等など発見されている。出土遺物として、土師器、須恵器、青磁・青花などの12世紀から16世紀代の輸入磁器、東播磨系の中世須恵器、擂鉢、石臼、滑石製石鍋などが出土している。この二つの遺跡は、平泉城跡と時期が一部重なることから、平泉城を中心に形成された集落跡ではないかとも推測されている。中世後半になると、牛屎院を永く支配していた牛屎氏は、菱刈氏・相良氏に追われ飯野（現えびの市）に移り、牛山城（大口城）は菱刈氏・相良氏の根拠地となり、島津氏と勢力を争っていた。しかし、文禄12(1569)年牛山城を攻撃した島津氏に対し、菱刈氏・相良氏は降伏した。降伏した菱刈氏は、島津氏により旧領地のうち太良城周辺と曾木のみを与えられ、その後伊集院神殿に移された。牛屎院では、地頭職に新納忠元が任命され、以後島津氏による統治が江戸末期まで行われた。新納忠元が地頭職に就いた頃から、大口という地名が文献等に表れるようになった。中世後半の遺跡で代表的なものは城館跡が挙げられるが、発掘された城館跡としては、平泉城跡が知られる。標高240mの3か所の曲輪を中心に、標高230～235mの6か所の曲輪からなり、西側から北側と東側に空堀が配され、南側は崖という多郭式中世山城の形態である。また、井戸や曲輪頂上部の平坦面からは9棟の掘立柱建物跡や13基以上の炉跡などが検出されている。出土遺物として、青花や白磁の碗・皿など14世紀から16世紀にかけての輸入陶磁器が多く出土している。また、城館跡として、牛山（大口）城・山野城・羽月城・大平城・高殿城・曾木城・太良城・馬越城・湯之尾城・入山（市山）城などがある。中世末～近世の遺跡として、閑白陣跡がある。閑白陣・天堂ヶ尾を取り囲むよ

うに全長3kmを超える土塁・石塁・溝が発見されている。土塁・石塁は、高さ1.2m・幅2mほどあり、平行して深さ50～60cmの溝がある。この閑白陣跡は、豊臣秀吉が島津平定のあと、川内泰平寺から引き揚げる途中に野営し、当時の大口地頭新納忠元と会見した陣跡と伝えられる場所である。この頃、牛屎院・祁答院地方を合わせた地域として伊佐という地名が見られる。近世においては、広徳寺跡古墓と王城古墓がある。ともに18世紀頃の墓から人骨と古銭（寛永通宝）が出土している。外城制度（天明4〔1784〕年、郷へ改称）に関連するものとして、地頭板屋、境目番所・辺路番所・廻役所・馬改所などがあった。また、野町と呼ばれる商人の居住区も存在した。交通網に目を向けると、陸上交通では、主要街道の一つである大口筋（加治木町・霧島市横川町・伊佐市を経て水俣に至る）が通っていた。伊佐市は熊本（肥後）・宮崎（日向）と接しているため、他国境目番所・辺路番所が多く設けられていた。河川交通では、川内川を利用した舟運がある。特に、藩に納める上納米を運ぶために、羽月下木場（曾木の滝下流）から宮之城河原までの舟路がある。この舟路は、陸路で宮之城まで上納米を運ぶ農民たちの苦労を軽減しようと、西原八幡宮宮司であった堀之内良眼坊が藩の許可と資金を得て、天保13（1842）年、肥後の石工14人をはじめ、藩内の石工・入夫を採用し川内川の川浚え等の工事に着手したものである。大小の岩石を崩して取り除き、約4里の川筋を浚え、下木場から宮之城河原までの6里を自由に川舟が往来できるようにした。また、市内の川内川各所には、湯之尾渡し・本城渡し・森山渡し・下手の水天渡し・鈴之瀬の渡し・下殿の渡しなど渡し舟があった。

近代の遺構として、曾木発電所遺構がある。この発電所は、明治42（1900）年、日立コンツェルン創始者で我が国の代表的な経済人である野口達により建設されたものである。発電所の建物は、幅43m・奥行20m・高さ19m・総面積2207.7m²の2階建一部3階建であり、明治時代建造のレンガ造りとしては鹿児島県で唯一現存する建造物である。当時は、熊本県水俣のカーバイト工場（現チッソ㈱水俣製造所）に電力を供給していた。

以上のほかにも近世・近代の遺跡があるが、この時期の調査事例は全般的に少なく、明らかでない部分が多い。

大口市郷土史編さん委員会 1999 『大口市郷土誌』
(上巻) 二刷

大口市郷土史編さん委員会 2006 『大口市の埋蔵文化財』

鹿児島県土木部河川課 1992 『鹿児島の河川・海岸』

菱刈町郷土誌編纂委員会 2007 『菱刈町郷土誌』(改訂版)



第3図 周辺遺跡地図（34が下鶴遺跡）

表1 遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	備考
1	手向山遺跡	伊佐市大口鳥巣手向山	手向山式土器の標式遺跡
2	殿後遺跡	伊佐市大口白木殿後	平成9年度分布調査
3	萩谷遺跡	伊佐市大口羽月萩谷	平成9年度分布調査
4	羽月城跡	伊佐市大口下殿野類	別称「藤尾城」「高山城」
5	徳ヶ島遺跡	伊佐市大口大島字長徳ヶ島	平成元年度分布調査
6	長ミトイ遺跡	伊佐市大口大島字長ミトイ	平成元年度分布調査
7	後牟田遺跡	伊佐市大口大島字後牟田	平成元年度分布調査
8	堤原遺跡	伊佐市大口下殿堤原	
9	湯ノ谷遺跡	伊佐市大口羽月湯ノ谷	平成9年度分布調査
10	鰐崎遺跡	伊佐市大口下殿字鰐崎	
11	引田遺跡	伊佐市大口金波田字引田	
12	池ノ山遺跡	伊佐市大口羽月池ノ山	平成9年度分布調査
13	椿城跡	伊佐市大口宮人	中世城館
14	上尾下遺跡	伊佐市大口宮人上尾下シ	大口市埋文報(23)
15	中牟田遺跡	伊佐市大口宮人中牟田	平成10年度分布調査
16	下尾下遺跡	伊佐市大口宮人下尾下シ	平成9年度分布調査、大口市埋文報(23)
17	長迫遺跡	伊佐市大口宮人長迫	平成10年度分布調査
18	矢橋川遺跡	伊佐市大口宮人矢橋川	平成10年度分布調査
19	タツタ下遺跡	伊佐市大口大住タツタ下	
20	大住B遺跡	伊佐市大口宮人大住	平成7年度分布調査
21	並木遺跡	伊佐市大口羽月下木場並木	並木式土器の標式遺跡
22	大住遺跡	伊佐市大口宮人大住	平成7年度分布調査
23	大牟田遺跡	伊佐市大口下殿大牟田	大口市埋文報(24)
24	下殿瀬ノ上遺跡	伊佐市大口下殿瀬ノ上	伊佐市埋文報(1)
25	高津原遺跡	伊佐市大口下殿字高津原	
26	高田遺跡	伊佐市大口下殿字高田	大口市埋文報(19)
27	梅木遺跡	伊佐市大口下殿字梅木	大口市埋文報(19)
28	浜場遺跡	伊佐市大口羽月高津原浜場	
29	焼山遺跡	伊佐市大口下殿焼山	県文化財調査報告書(6)
30	山下遺跡	伊佐市大口下殿山下	
31	高殿城跡	伊佐市大口下殿山下	別称「小鷹城」
32	権現原遺跡	伊佐市大口下殿権現原	
33	下ノ原B遺跡	伊佐市大口下殿下ノ原	県埋文セ報(137)
34	下鶴遺跡	伊佐市大口下殿下鶴	平成18年度分布調査、本報告
35	下ノ原A遺跡	伊佐市大口下殿下ノ原	平成10年度分布調査で範囲拡大
36	鶴園遺跡	伊佐市大口曾木鶴園・竹下	平成10年度分布調査
37	曾木城跡	伊佐市大口曾木城添	別称「諏訪城」
38	荒瀬遺跡	伊佐市大口曾木荒瀬	平成10年度分布調査
39	富塚遺跡	伊佐市大口曾木富塚	平成3年度分布調査
40	原遺跡	伊佐市大口曾木原	平成3・10年度分布調査
41	米置遺跡	伊佐市大口曾木米置	大口市埋文報(17)
42	弓場ヶ迫遺跡	伊佐市大口曾木弓場ヶ迫	平成3年度分布調査
43	大脇山遺跡	伊佐市大口曾木大脇山	平成3・10年度分布調査
44	上岡遺跡	伊佐市大口曾木上岡	平成3年度分布調査
45	宮田原遺跡	伊佐市大口曾木宮田原	平成3年度分布調査
46	上部当遺跡	伊佐市大口針持上部当	平成3年度分布調査
47	並木口遺跡	伊佐市大口針牟田	平成2年度分布調査、大口市埋文報(18)

第3章 発掘調査の方法と成果

第1節 調査の方法

1 発掘調査の方法

下鶴遺跡は、羽月川右岸の標高約171mの河岸段丘上に位置する。遺跡の東側を流れる羽月川は、川内川の支流の一つである。本遺跡の周辺遺跡には、焼山遺跡や梅木遺跡等があり、下流側に700m程度の所には、同起因事業で発掘調査を実施した下ノ原B遺跡も所在する。

調査範囲は、国道に並行する農道（第17号支線道路）から河川にかけての東側一帯の40,400m²である。調査区の設定は、工事計画図に示されているR-11とR-12とを直線で結びこれを南北軸とし、この交点に直行する軸を東西軸とした。これを基準に、10m間隔に西から東へA, B, C, 北から南へ1, 2, 3との調査区割りを設定した。

平成21年度の調査は、築堤部分で且つ下流側を優先的に実施し、築堤部分に関しては、調査終了部分を調査期間中3回に分けて引き渡した。調査期間は、5月8日から平成22年3月25日までの作業員実働165日間で、延べの作業員数は12,096名である。調査対象面積は40,400m²で、この内38,800m²を21年度に実施した。

平成22年度の調査は、6月1日から7月27日までの作業員実働31日間で、延べの作業員数は890名である。調査対象面積は1,600m²である。

調査の方法は、各年共通で重機（バックホー）によって表土を除去した後に人力による発掘を進めた。遺物包含層は、遺跡西側では良好に認められたが、東側へ行くにしたがい残存状況は悪い。このため、各時期ごとの地形測量は難しいと判断し、VI層上面（Ah）で一括して測量することとした。

遺物包含層が残存している場合は、小破片は先に設定した調査区ごとに一括し、それ以外の遺物に関しては必要に応じて写真撮影等を実施した後にトータルステーションにより取上げた。その後、VI層上面において遺構精査を実施した。

2 遺構の認定と検出方法

精査作業を経て検出された遺構については、概ね2m四方以上のものを竪穴状遺構と認定し、検出された順にSHの略記号を用いた。2mに満たないものは土坑として取り扱い、検出された順にSKの略記号を用いた。柱穴は、調査区全面に検出され、この取り扱いに関しては、3つの埋土パターンに分け、周辺に堆積している土壤の特徴などから、茶褐色粘質土がマダラ状に堆積しているものを近世、灰褐色土が堆積しやや砂質があるものを中世～近世、黒褐色土が堆積しているものを古墳～古代と

時期を認定した。しかし、2つの異なる埋土パターンの柱穴で掘立柱建物跡が検出されるなどの矛盾もあり、時期判断に関しては再検討すべき点も残されている。

これらの遺構は、検出状況の写真撮影や図面作成を実施したあと掘り下げを行い、出土遺物の取上げや調査状況の撮影、土層断面実測等を遺構の残存状況に応じて行った。遺構の認定については、埋土の状況や床面の状態、遺構内遺物の出土状況などから判断していく。

なお、平成21年度及び平成22年度の調査において、地形測量及び遺構の図面や遺物出土状況図作成の一部について実測業務委託を実施している。

3 整理作業の方法

水洗いは平成21年度中に一部実施したが、大半は本年度中に実施した。水洗作業の方法は、土器や陶磁器類に関してはブラシを用いたが、黒曜石や石器類は超音波洗浄器を用いて進めている。

注記は、注記記号「SZ」を頭に、包含層資料は続けて「区」「層」「遺物番号」の順番で記入した。遺構は、「SZ」に続いて「SH」や「SK」などの遺構記号を用いている。なお、爪先状の小破片に関しては注記を省略している。

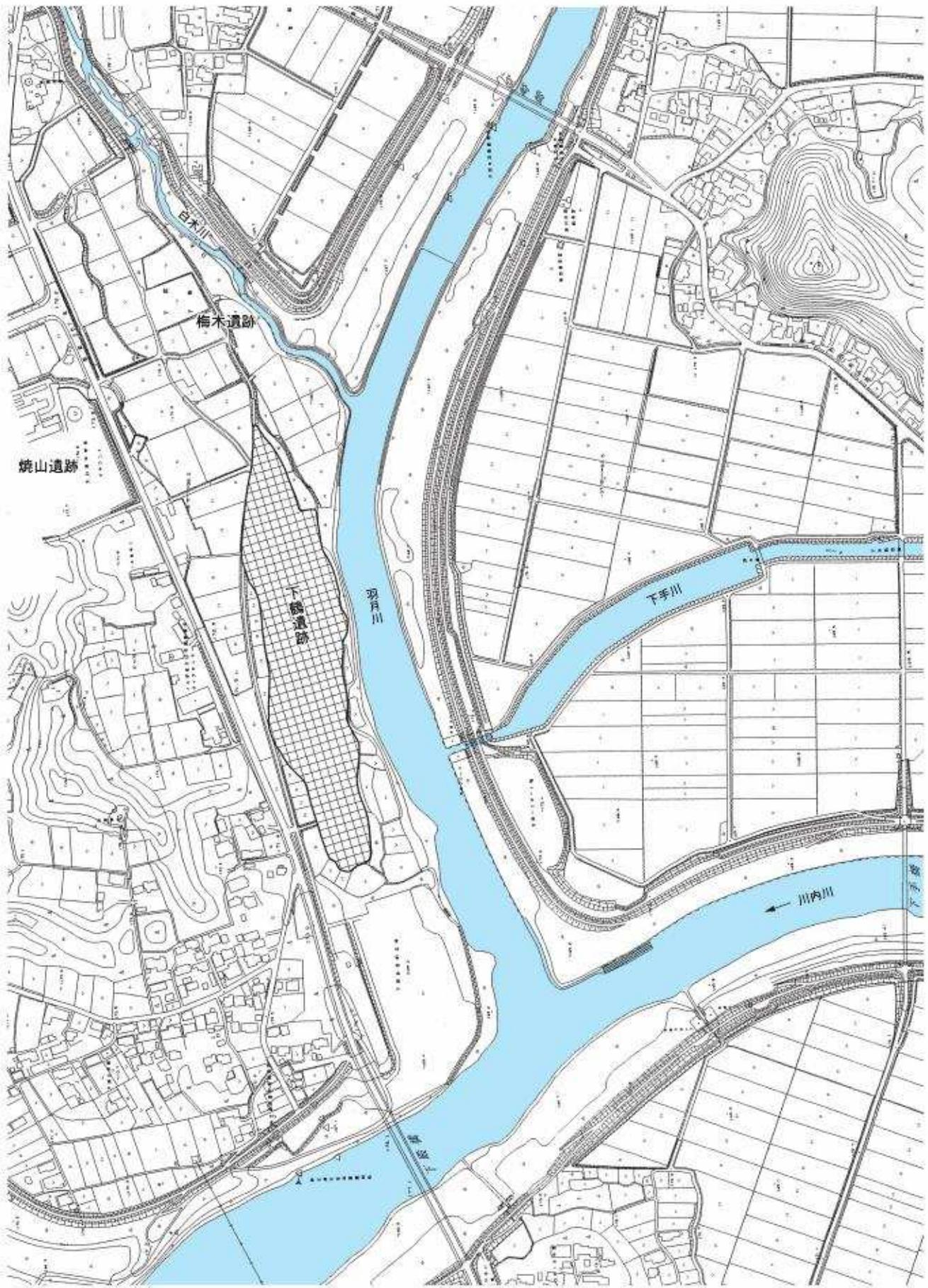
遺物の接合は、石器や剥片類は時間的な制約等から断念し、土器類、陶磁器・須恵器類に関してのみ行った。まず陶磁器や須恵器など比較的抽出が容易なものについて抜き出し、土器類と区別した。次に、それぞれ同一区内で接合作業を行い、徐々に接合範囲を広げていった。その間に、特徴的な遺物で抽出できるものに関しては適宜抜き出して接合を進めている。

4 出土遺物の分類について

(1) 土器類

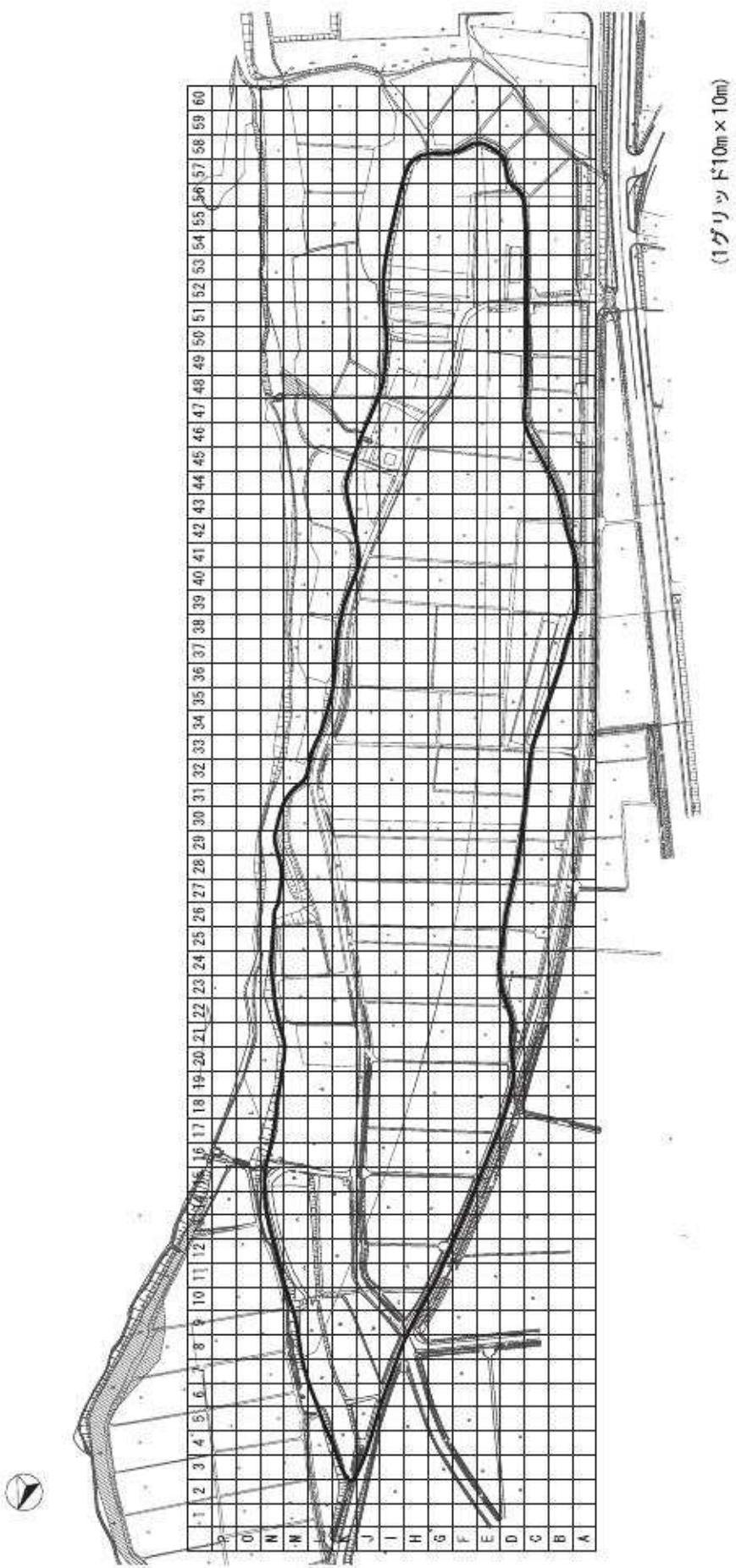
層位において詳細は記すが、調査区は南北に長く層の堆積状況も南側と北側とでは大きく異なっている。また、遺物包含層の残存状況から、一部のエリアでⅡ層とⅣ層の区別が困難な場所があった。このため、土器に限らず多くの遺物は、整理作業の段階で形状等の特徴から時期を判断して分類を行った。分類は、各時代ごとに遺物を振り分けた後に実施し、細分可能な資料についてはこれを行い、詳細は各時代ごとに掲載した。時代間の混乱を避けるために、縄文時代の土器を第1群、弥生時代を第2群、弥生時代終末から古墳時代を第3群、古代を第4群、中世から近世を第5群と便宜上呼びわけ、時代ごとに細分類を実施している。

なお、細分類の視点は各時代ごとに異なっている。



第4図 下鶴遺跡周辺図

第5図 グリッド配置図



(2)石器類

ア石器

石器の分類は、器種ごとに細分が可能なものについて細分を行い、剥片・チップ類は石材分類は行ったが細分は行っていない。これらの概要は表3に示した。二次加工剥片に関しては、器種不明の資料もここに分類されている。石器組成は表4に示している。

イ石材

石器の石材は、石材产地を推定できる黒曜石や質感などで分類できる安山岩については細分化を試みた。それ以外の石材に関しては、特徴のあるものについてそれぞれの石器の中で述べている。これらの石材ごとの出土点数及び出土率は表4に示した。伊佐市周辺には、黒曜石の原産地が複数確認されており、また、周辺の河川からも転運を容易に採取することが出来る。遺跡内出土の黒曜石を見てみると、やはり日東系や桑ノ木津留系が多数を占めており、地理的特徴を色濃く反映している。

第2節 層序

下鶴遺跡の基本土層・遺物包含層は、以下のように整理した。遺跡中心部分はVI層上面ないしはVII層まで削平を受け、各時代の遺構配置図にアカホヤ消失ラインとして破線で示した。また、遺跡北側に行くに従って、II層からVII層は薄くなり、多くの層は見られなくなる。アカホヤ火山灰層についても、南側では遺構内において埋土や貼床など何らかの形で堆積していたが、遺跡北側の各時代の遺構内には、ほとんど混在していない。また、VII層以下に関しても変化が見られる。北側では砂礫を多く含むが、南側では粘質で砂礫は含まれない。

I a層	現耕作土	
I b層	灰茶褐色土	
II層	黑色土	
III層	茶褐色土	谷部に堆積
IV層	黒褐色土	
V層	黄茶褐色土	
VI層	黄橙色火山灰	北側堆積なし
VII層	黑褐色粘質土	北側堆積なし
VIII層	黄茶褐色土	北側は砂質で砂礫を含み、南側では粘質
IX層	河床砂礫層	

第6図 基本土層図



H・I-49区



E-24区



K・L-15区

表2 石器分類表

器種	分類	概要
剥片石器	石鏃	剥片を素材として両側縁部に両面から押圧剥離を施してある小型から中型の三角形状の石器群を石鏃とした。
		I 全体の形状がほぼ三角形
		II 全体の形状がほぼ五角形
		III 全体の形状がほぼ丸形
		a 全体の形状が正三角形を呈するもの
		b 全体の形状が二等辺三角形を呈するもの
		c 全体の形状が二等辺三角形で、縦が幅の2倍以上の長さを呈するもの
		抉りの状況により 1：平坦、2：浅い、3：深い、4：U字
	石匙	剥片を素材とし刃部及びつまみ部を作出し、つまみ部に着紐して携帯する石器群を石匙とした。
	スクレイバー	剥片の縁辺部などに二次調整を行い、刃部整形を施してあるものをスクレイバーとした。
剥片石器	二次加工剥片	剥片の縁辺部などに二次調整を行い、刃部整形が認められないものを二次加工剥片とし、刃部整形が認められるもので一定の大きさを有する資料は礫器類に含めた。
		A 縦長の剥片の側辺部に加工があるもの。
		B 不定形の剥片の縁辺部に加工があるもの。
		C 剥片の下端部に調整がみられるもの。
		D 加工が複数の場所にみられるもの。
		E 鏡い先端をもった剥片で、先端をつくるような調整がみられるもの。
		サイドブレイド 縦長剥片を素材とし、剥片の長軸あるいは短軸の両端または一端を調整削離や切断によって加工を施し、刃部に使用痕が見られる小型の石器をサイドブレイドとして分類した。
		微細剥離痕剥片 使用によって刃縁部に生じた微小剥離痕や線状痕などの痕跡があるものを微細剥離痕剥片とした。
		石錐 穿孔あるいは穿穴に使用された加工道具。つまみ部と棒状の錐部を有し、主要剥離面や礫皮面をつまみ部とするものや、欠損を有するものなどを包括した。
		楔形石器 ピエス・エスキューとも称される。表面觀は方形で、上縁端部及び下縁端部は直線的で平行に位置する。刃部断面觀が凸レンズ状に鋭角をなし、基部には敲打面を有する。本石器を木の実や骨などにあて、敲石等で嵌いて削るために使用したと想定される。
礫石器	擦切抉石器	砂岩質の礫素材を使用する。刃縁部の片面側もしくは両面側に削痕を有する。磨製石斧等の素材を抽出するために、礫素材を擦り切り、分離するための道具と考えられる。
		異形石器 二次調整により整形された石器ではありながら、機能・用途が不明なものを異形石器と分類した。
		石核 石器製品作出のため、剥片を採取した残存石材を本類に分類した。なお、剥離痕に顯著な使用痕等確認できる資料については、礫器に含めた。
		I 自然面を有するもの。
		II 自然面を有しないもの。
		a 周辺から中心に向かって剥ぐもの。
		b 分割により平坦な打面を形成した後、同一打面から剥いだもの。
		c 剥離方向に法則性が見いだせないもの。
		III 原石の形状を残すもの。
		I 器厚が厚く、重量感がある。刃部は船の形態を有し、器形は長方形状を呈する。
礫石器	磨製石斧	II より小型で、刃部は船の形態を有する。基部が細く、刃部との境に肩を有し、器形がラケット状を呈する。
		III 比較的小型で細長く加工されたものである。ノミ形石器と呼称されるタイプである。
		I 明瞭な抉りを持たず、短冊形（長方形）の器形を呈する。器厚は比較的厚い。短冊形石斧と呼称。
	打製石斧	II 明瞭な抉りを持たず、短冊形（長方形）の器形を呈する。I類に類似するが、器厚が極薄く、より動に近似する。扁平石斧と呼称。
		III 基部と刃部を境界する抉り部を持ち、ラケット状を呈する。有肩石斧と呼称。
	礫器類	I 素材剥片の両側縁部に刃部調整が施され、柳葉状の器形を呈する。
		II 素材剥片の下縁部に刃部調整が施され、横長楕円（長方形）状の器形を呈する。
		III 素材剥片の一辺に刃部調整が施され、器形は三角形状を呈する。刃部整形は直線的である。
		IV 長方形状の素材剥片の接しない2側縁部に刃部調整が施される。
		V 上面觀が円形を呈しており、周縁部に調整を施し、基部及び刃部を作出する。ラウンドスクレイバーとも呼称される。
	磨石 敲石 磨敲石	I a 比較的小穢を素材とする。全面的もしくは部分的に磨面のみを有し、敲打痕は不明瞭である。
		I b 比較的小穢を素材とする。全面的もしくは部分的に磨面を有し、平坦面や個縁に明瞭な敲打痕が見られる。
		II a 大きめな穢を素材とする。全面的もしくは部分的に磨面のみを有し、敲打痕は不明瞭である。
		II b 大きめな穢を素材とする。全面的もしくは部分的に磨面を有し、平坦面や個縁に明瞭な敲打痕が見られる。
		III 上記I及びII類以外の資料である。上面觀が長椭円形もしくは不定形状を呈し、用途が敲石と考えられる資料群である。
	石皿・台石	石皿は大礫を利用し、磨面・凹面を有する。磨石とセット関係にあり、本の実を磨り潰したりするためと考えられる。台石も大礫を利用し、敲打痕を有する。敲石とセット関係にあり、石器製作時に石材を据え付けるためと考えられる。
	砥石	砂岩質の礫素材を利用し、主として長軸方向に削痕が縱走し、深い凹面を有することが多い。
	軽石製品	軽石を素材とする。穿孔や凹み等加工痕が残される。
	石鍼	左右1対の抉り部を有する。抉り部以外の側面に敲打痕等は確認できない。
	装飾品	管玉・勾玉・水晶玉やガラスの小玉など。
	石要品	上記石器に該当せず、利器としての用途が不明なもの。

表3 石材分類表

器種	分類	概要
黒曜石	I	不純物を多く含み、漆黒で光を通さないものを包括した。薩摩川内市樋脇町上牛鼻、いちき串木野市平木場、いちき串木野市宇都等の原産地資料に類似する。
	II	光を通し、不純物を大量に含むものを総括した。鹿児島市の三船、伊佐市大口平出水の日東、小川内五女木、錦江町の長谷等の原産地資料に類似する。
	III	鈍色～黒色を基調とし、不純物をほとんど含まない良質のものを包括した。えびの市の桑ノ木津留、伊佐市大口の上青木の原産地資料や自然面が磨りガラス状を呈する霧島系の資料に類似するが細分を行いうことはできなかった。
	IV	黒色で不純物を全く含まない良質のものを包括した。佐賀県伊万里市腰岳産の資料に類似するが、一部長崎県佐世保市針尾島周辺で産出する黒色系のものも含まれる。
	V	青灰色で不純物の少ないものを包括した。針尾中町や長崎県佐世保市東浜、淀姫等西北九州の原産地資料に類似するが、原産地不明の一群も含まれる。
	VI	不純物をあまり含まないオリーブ灰色ものを包括した。霧島系の資料に類似するが原産地不明の一群も含まれる。
安山岩	I	不純物が少なく、基質はやや滑らかでガラス質に富む質感を呈するものと、ざらついた質感を呈するもので黒灰色を呈するものを包括した。サヌカイトに類似する。
	II	輝石や石英、角閃石を多く含み、基質はややざらついた質感を呈するもの。一般的な安山岩。
蛇紋岩等		蛇紋岩はぬめっとした肌触りを有し、光沢がある。石材不明資料中、蛇紋岩に類似した資料も含めた。
頁岩		泥や粘土の固結した岩石で、平行な平面で割れる傾向がある。黒色のものが多いが、褐色系の色のものもある。非常に細粒で、肉眼では粒子の識別が出来ないものが多い。粒度均質。さびが付着するのも特徴である。
砂岩		砂粒・石英粒が集合して固まった堆積岩の一種。触ると粉粒感が強いものを含めた。
粘板岩		極微小な砂粒（泥粒）が集合して固まった堆積岩の一種。頁岩に似て層状を成すが、薄茶色～茶黄色を呈し、指で触ると粉が指頭に残るものを本類に含めた。
ホルンフェルス		硬質化が著しく、鉱物が相累なって帶状もしくは斑状を成すもの。ただし硬質化（もしくは珪質化）した頁岩は本類に含めず、頁岩に分類した。
無斑晶流紋岩		貫入した流紋岩が热水作用を受けたもの。岩石中の鉄分が酸化して本日の模様が見えるため木目石と呼ばれる。天草砥石が有名。
軽石		黄白色で気泡を多く含む。軽石製品に利用されている。
めのう系		めのう・玉髓・石英・蛋白石・鉄石英・水晶・石英斑岩などを総称して本類に含めた。
チャート		珪酸を含み光沢感を有する。灰白色を呈する。



黒曜石Ⅰ



黒曜石Ⅱ



黒曜石Ⅲ



黒曜石Ⅳ



黒曜石 V



黒曜石 VI



安山岩 I



安山岩 II



チャート



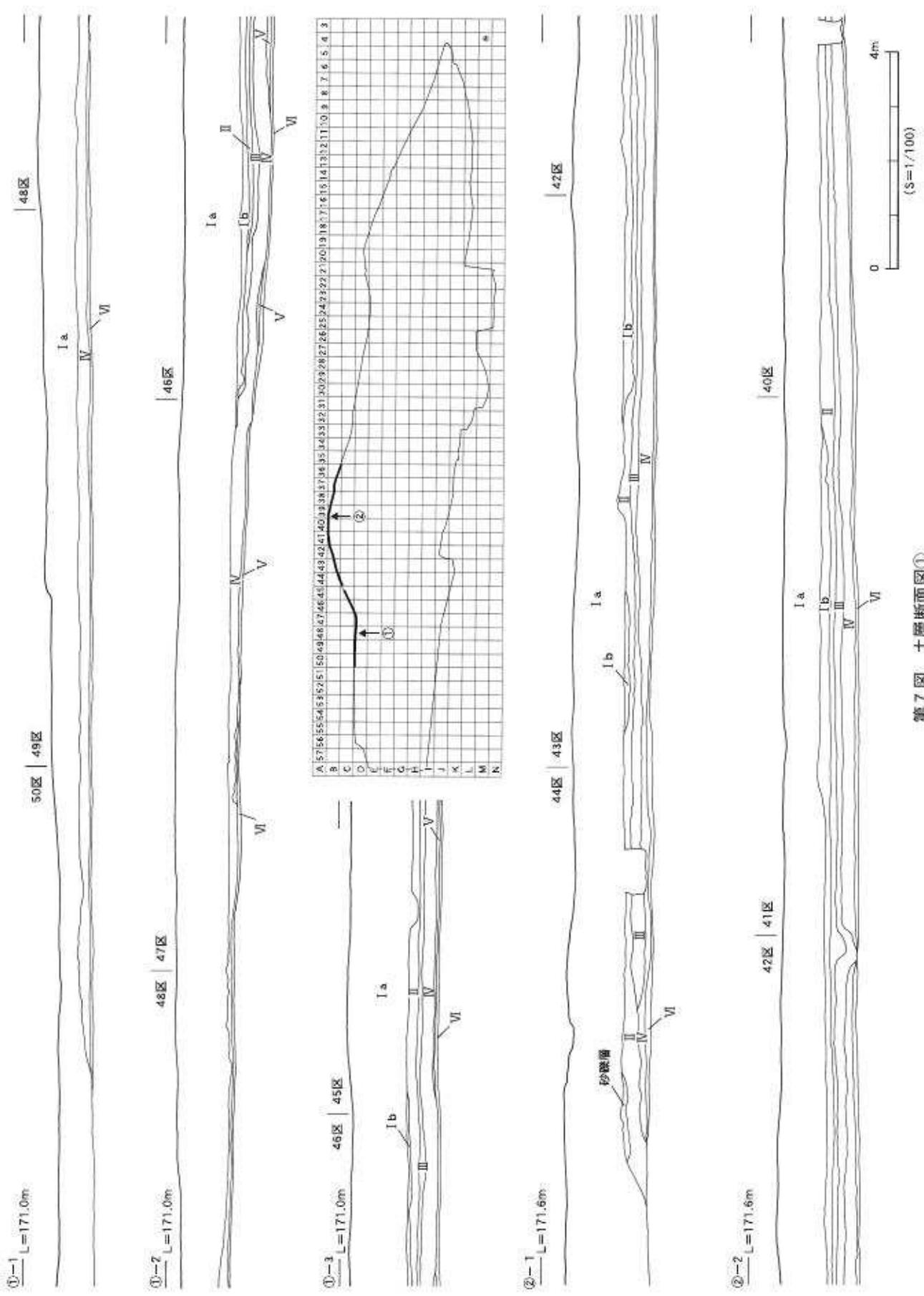
砂岩



頁岩

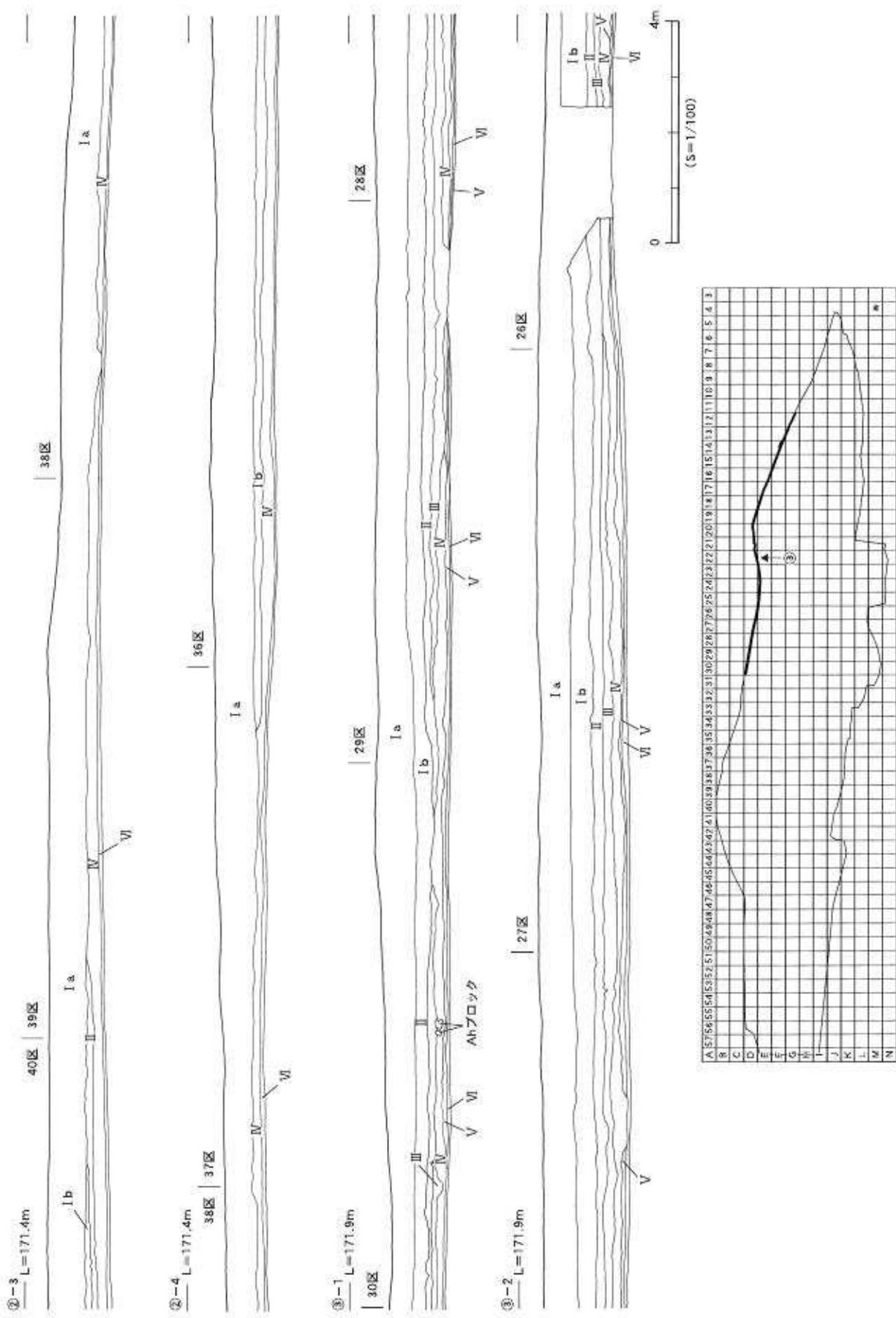


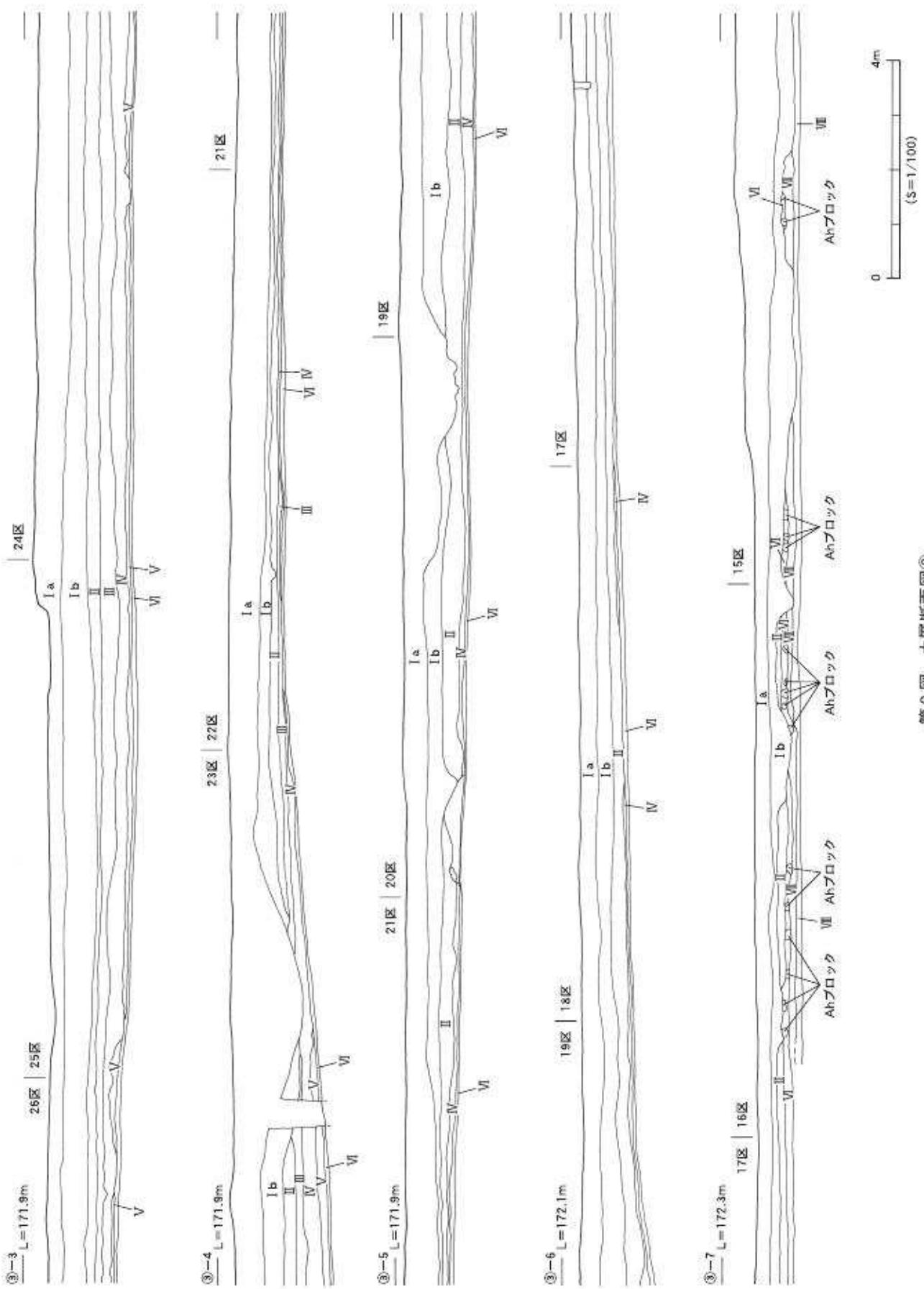
蛇紋岩



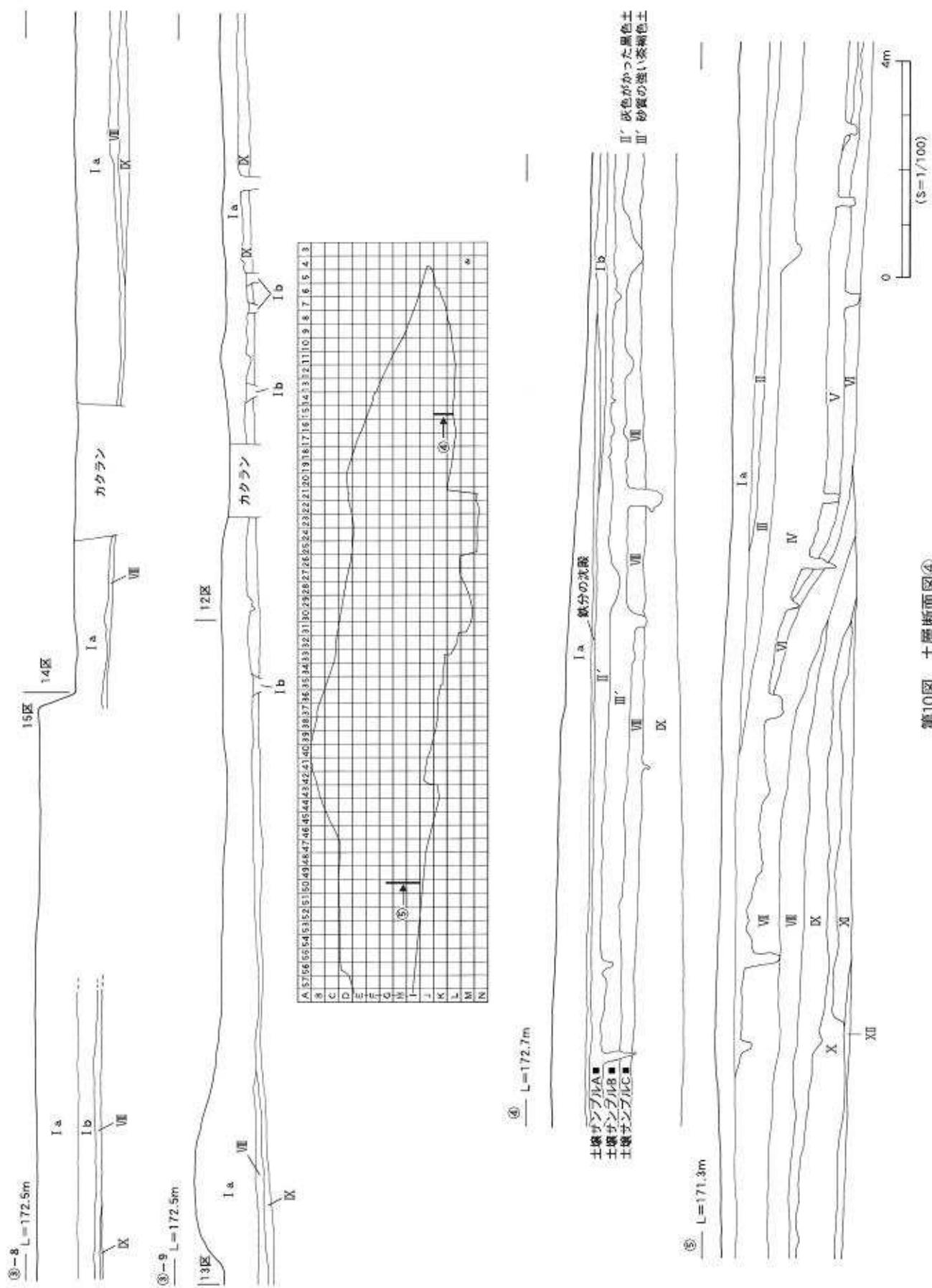
第7図 土層断面図①

第8図 土層断面図②





第9図 土層断面図③



第10図 土層断面図④

第3節 調査の成果

1 繩文時代の調査

(1)調査の概要

繩文時代の調査は、主にIV層で行った。しかし、層位の節にて述べたとおり、遺跡北側と南側とでは層の堆積等が異なっている点や、II層とIV層との区別が困難な箇所が多く、遺構検出面は北側では黄褐色砂礫層（VII層）上面、南側ではアカホヤ火山灰層（VI層）上面で行った。このため、遺物包含層すなわち生活面から下層で遺構を捉えていることとなる。

まず、遺構の調査は、各時代ほぼ共通であるが、検出状況の記録写真を撮影した後、ベルト設定なし半裁するなどして埋土状況を確認しながら掘り下げを実施していく。竪穴住居跡や土坑における床面の判断は、埋土堆積状況の変化や硬化面等の把握に依った。遺構検出を弥生時代や古墳時代等と同様で行ったために、検出当初から繩文時代の遺構として認識できたものは少ない。このため、時期認定は遺構内遺物の検討や埋土状況、周辺での遺物出土状況等を勘案して進めていった。その結果、第12～19図に示した遺構配置となった。調査対象地内中央からやや北側に遺構は多く検出されている。竪穴住居跡は4軒検出され、いずれも円形プランを基調とする。集石は1基が川側に近いM-22区で検出された。土坑は34基が検出された。その中でも、円形プランのもの

（28号・29号・30号・31号・32号）がJ-19区を中心に弧状を呈するようにも見える。また、土坑31号内からは完形品の鉢形土器が、土坑34号内からはX類がまとまって出土している。石皿片を含むものもある。なお、これらの個々の遺構の詳細については各遺構の中で述べてい

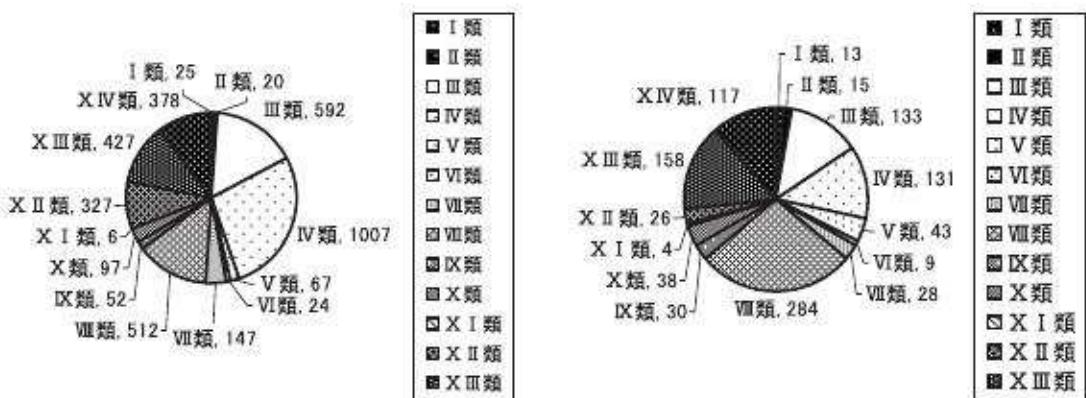
る。

次に、包含層の調査は、層の堆積が明確な部分に関して、大型の破片等はトータルステーションによって出土地点の記録を行った。遺物包含層が削平あるいは不明瞭な地点に関しては、グリッド毎に一括取り上げを行っている。また、包含層が残存していても、小破片に関してはグリッド毎に一括取り上げを実施している。

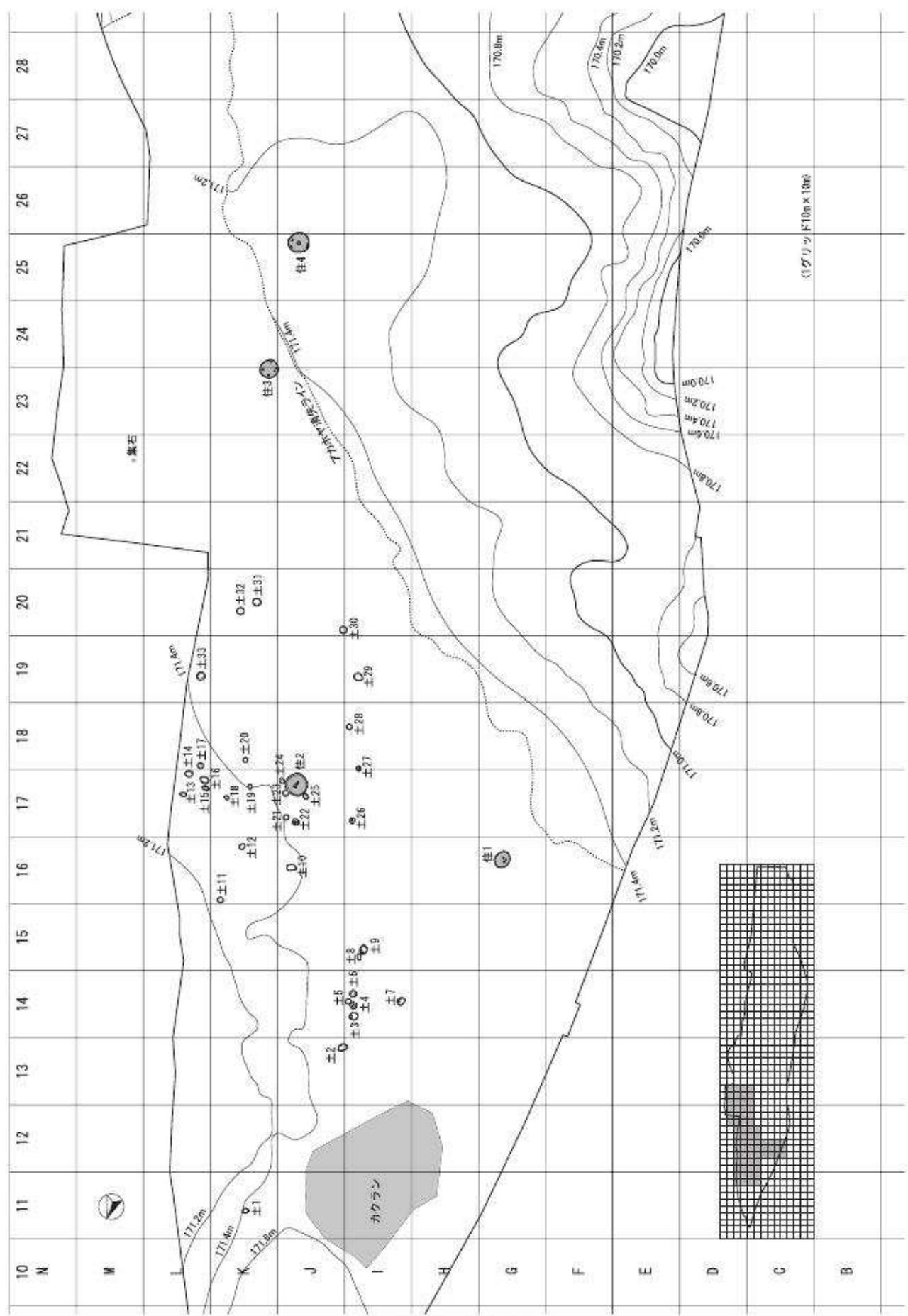
土器は、調査対象区のほぼ全域で出土しているが、16～23区に1つの集中が見られ、これはE～G区とK～L区にさらに分かれて見える。しかし、H～J区はアカホヤ火山灰層上面まで削平を受けており、両者は本来1つの集中箇所であったと思われる。また、I類とした早期資料は川側に多く出土する傾向が見られる。なお、II類とした滑石を多く混入する凹線文土器は、並木式土器に該当する。なお、並木式土器の標式遺跡である並木遺跡と下鶴遺跡は近い距離にある。

石器類では、多量の黒曜石製の製品、フレイク、チップが出土している。これは、伊佐市周辺に黒曜石の産地が複数見られ、また、下鶴遺跡前の羽月川や川内川などでも黒曜石の転砾を容易に採集できるという地理的な要因が現れたものであろう。分布は、土器類と類似しているが、特徴的な箇所として50～55区の黒曜石の集中が挙げられる。ここからは石器や石核、剥片類が多量に出土している。これは、石器製作を示すものであろう。土器類とほぼ同様の出土状況を呈していることから、これらの石器類は後期から晩期にかけてのものであると考えた。

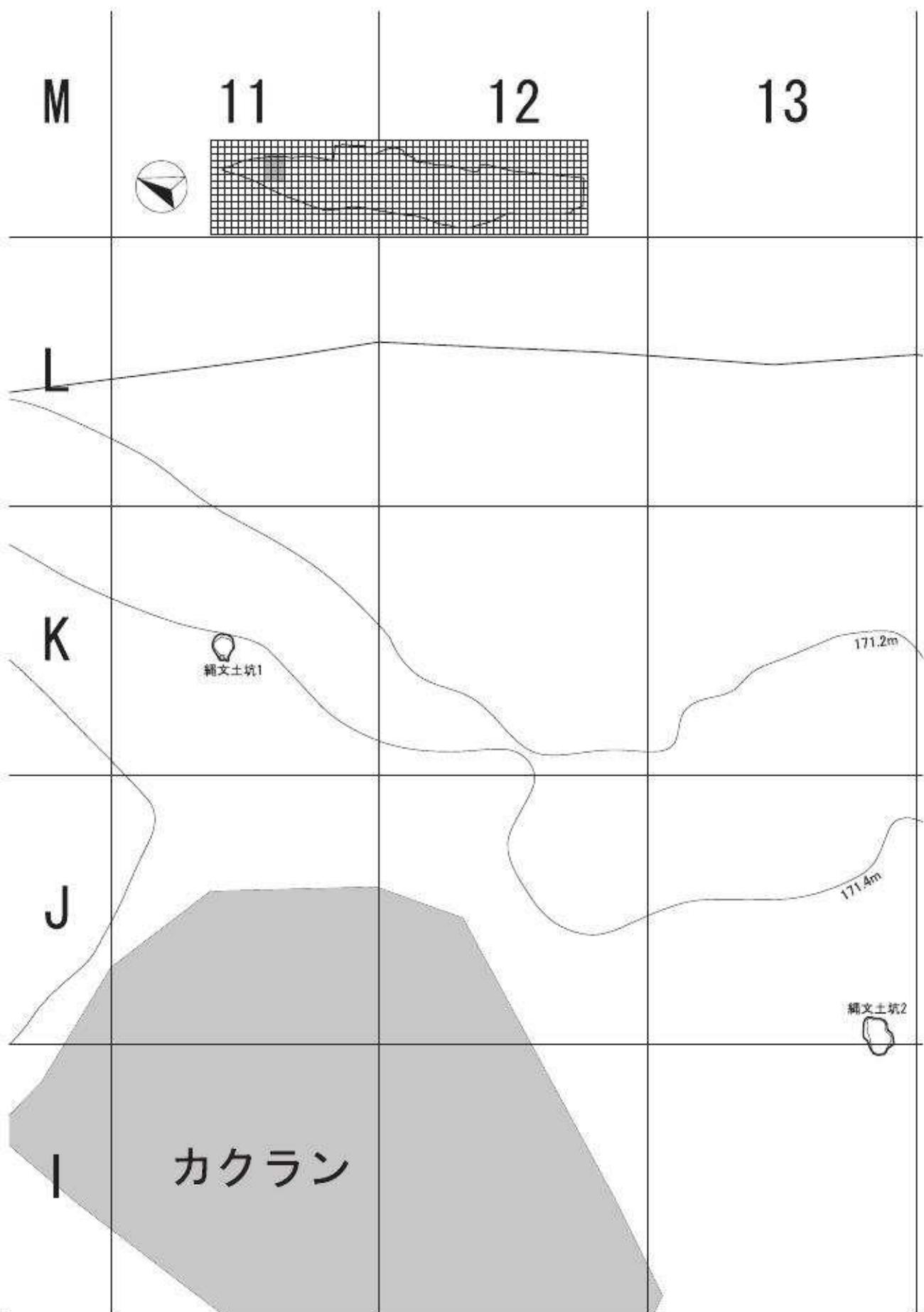
包含層における詳細な出土状況は、土器が第41・42図、石器類を第81～83図、石材ごとの出土状況は第84～86図に示した。



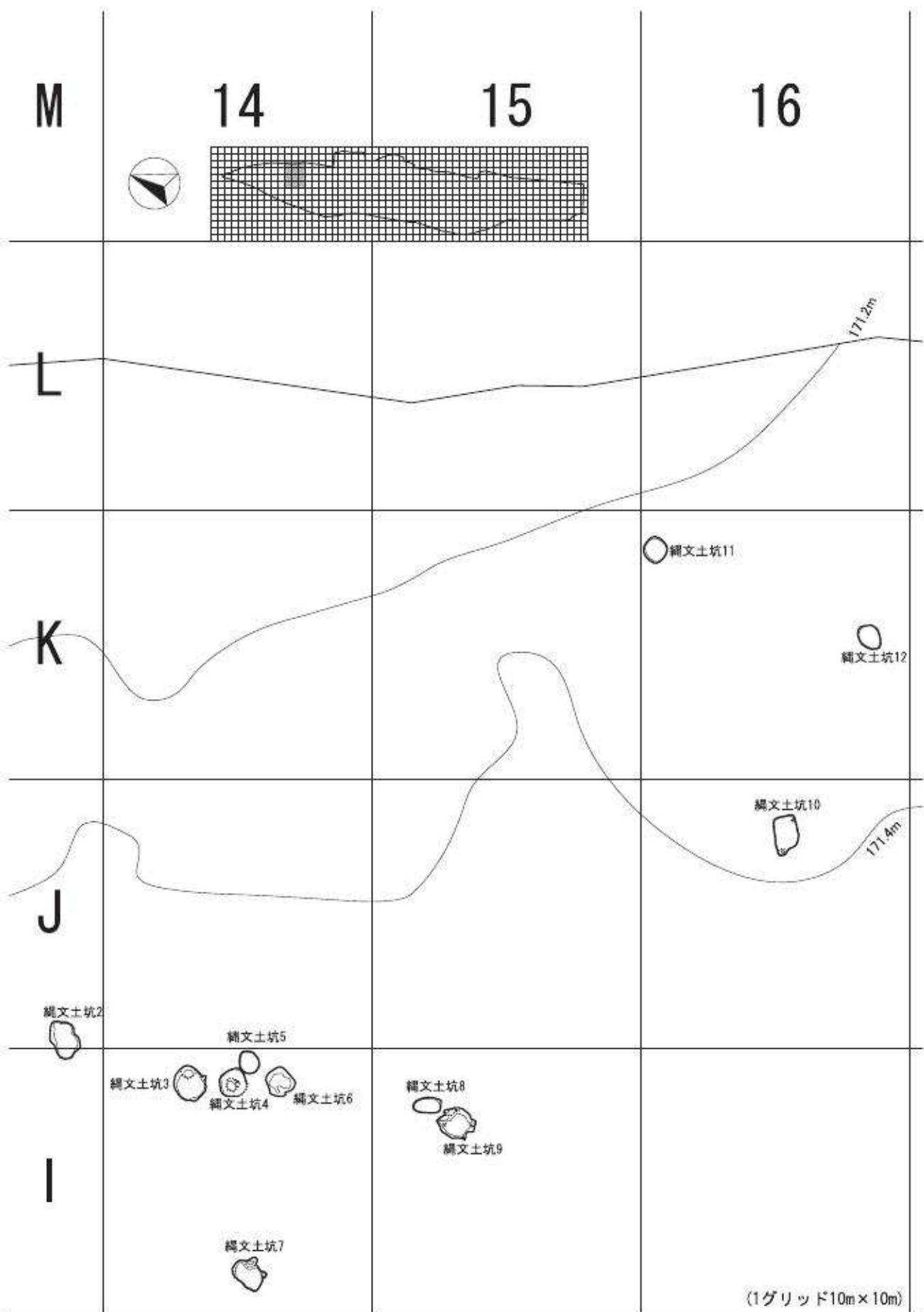
第11図 出土遺物割合図



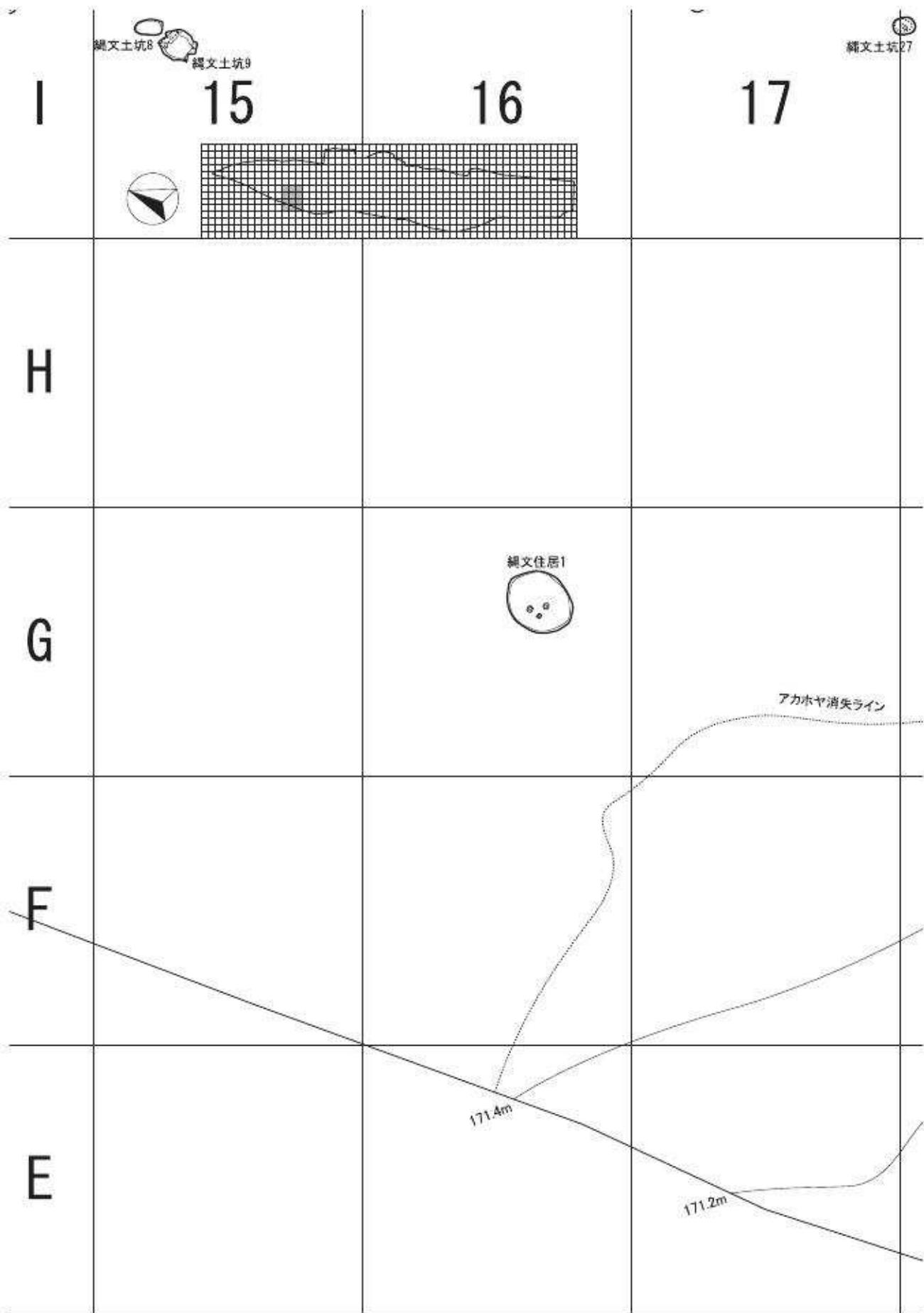
第12図 遺構配置図①



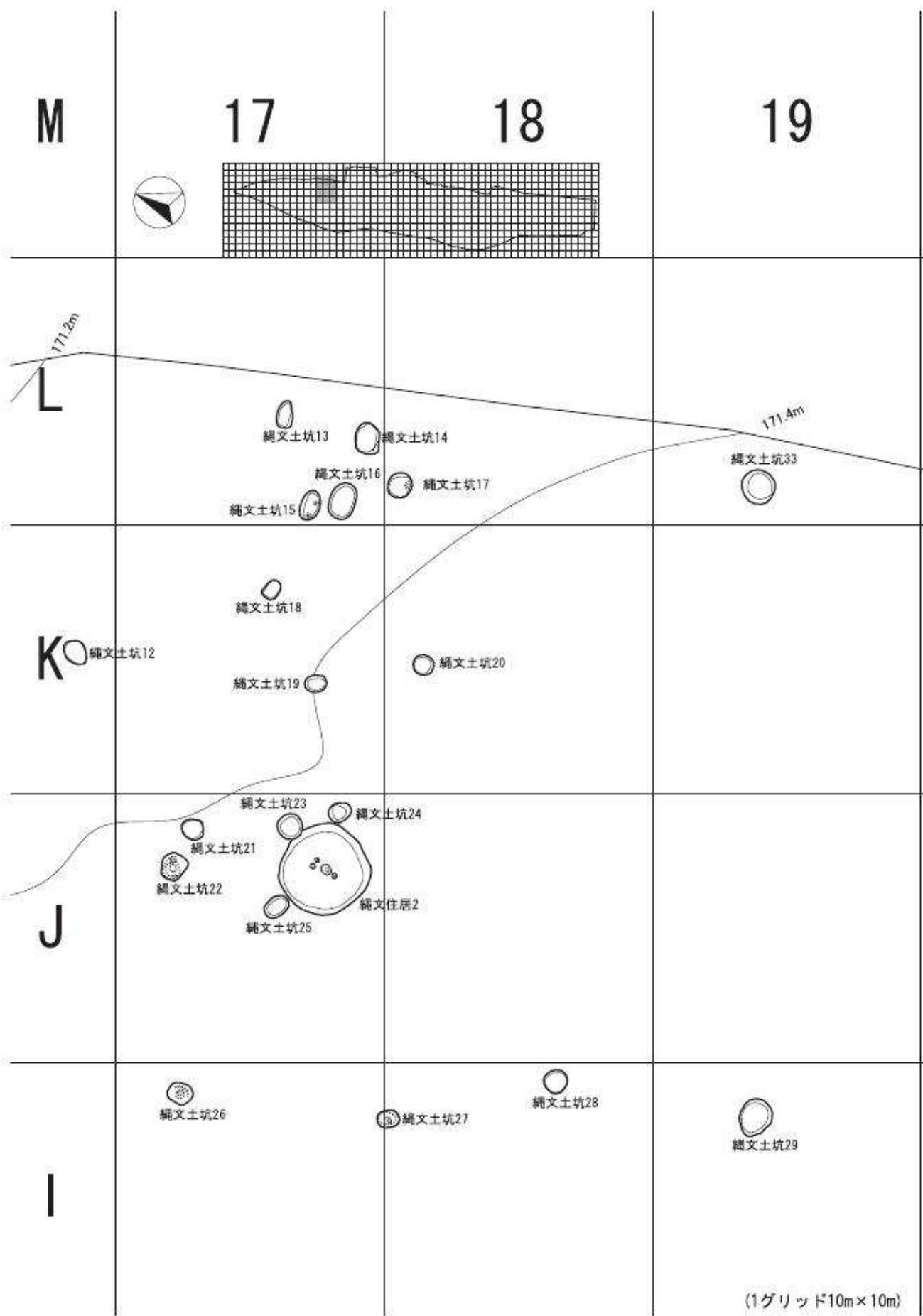
第13図 遺構配置図②



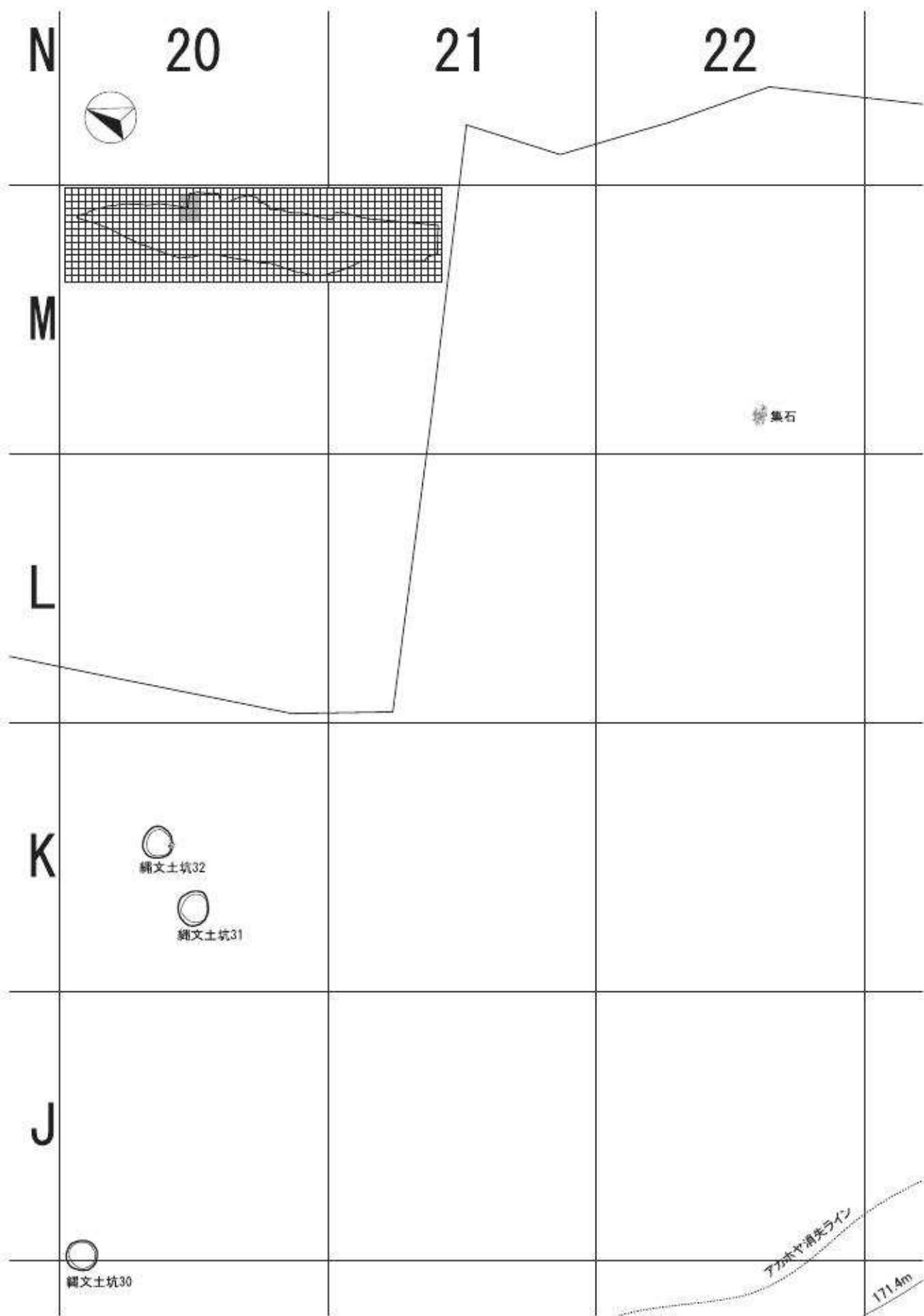
第14図 遺構配置図③



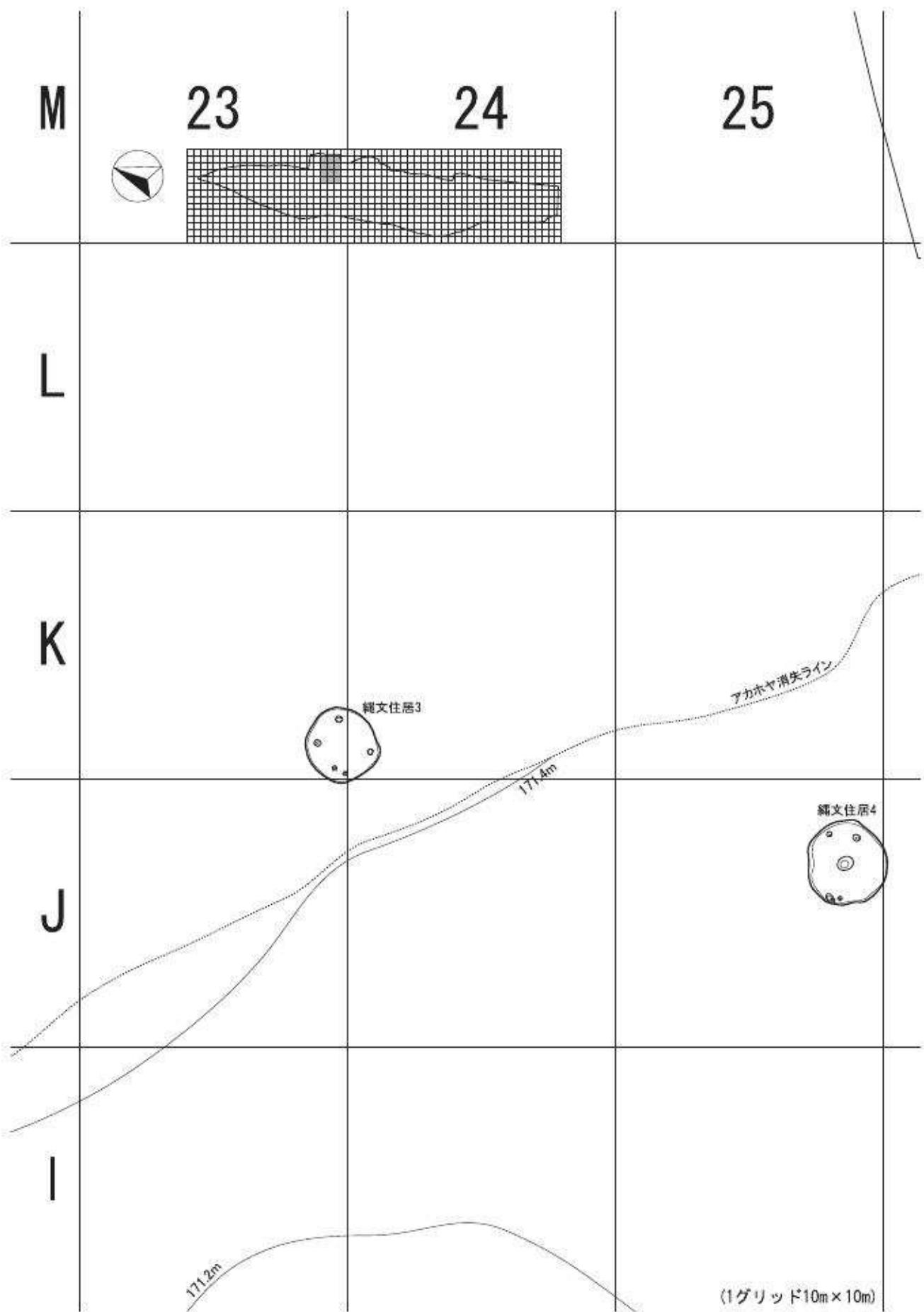
第15図 遺構配置図④



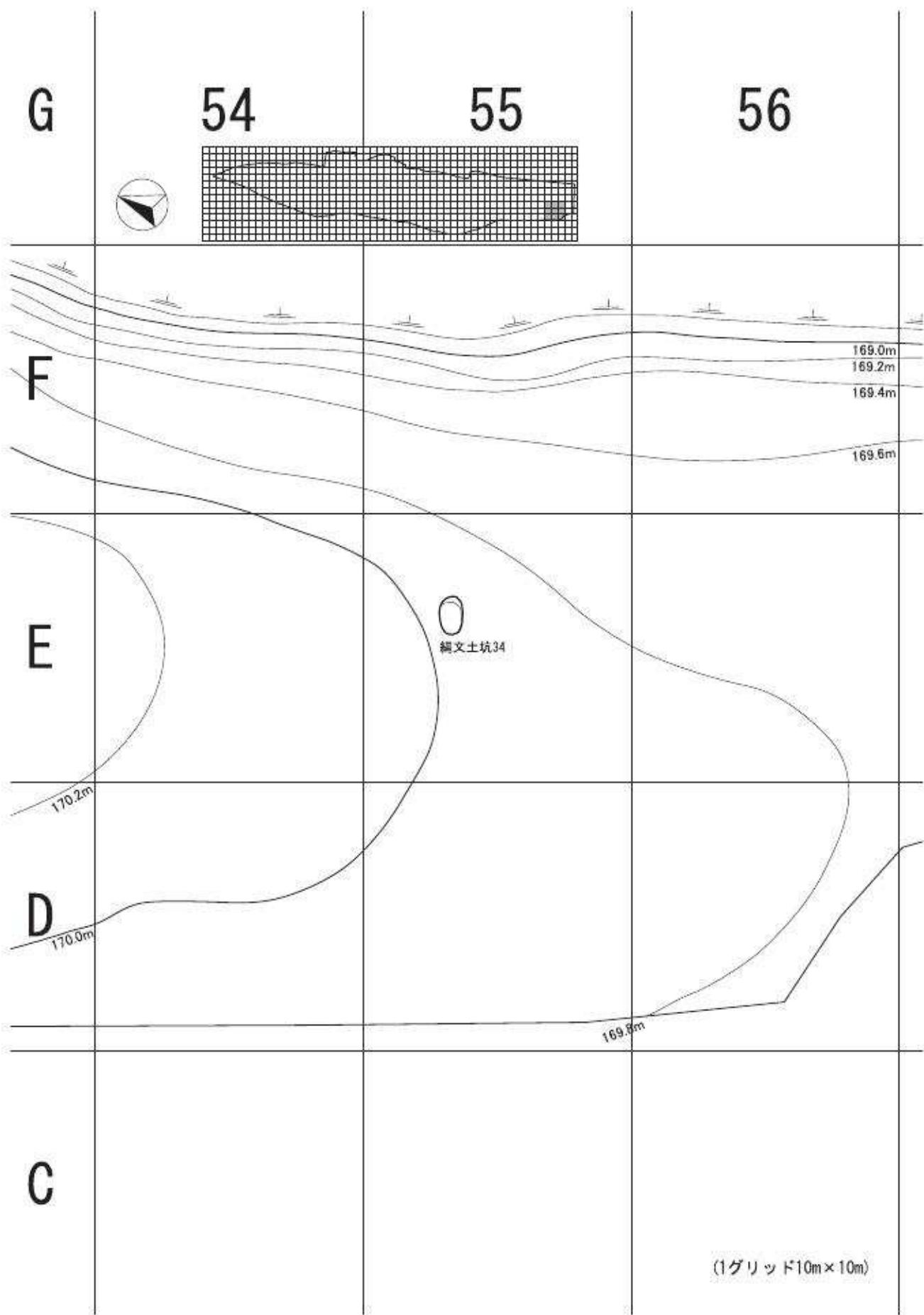
第16図 遺構配置図⑤



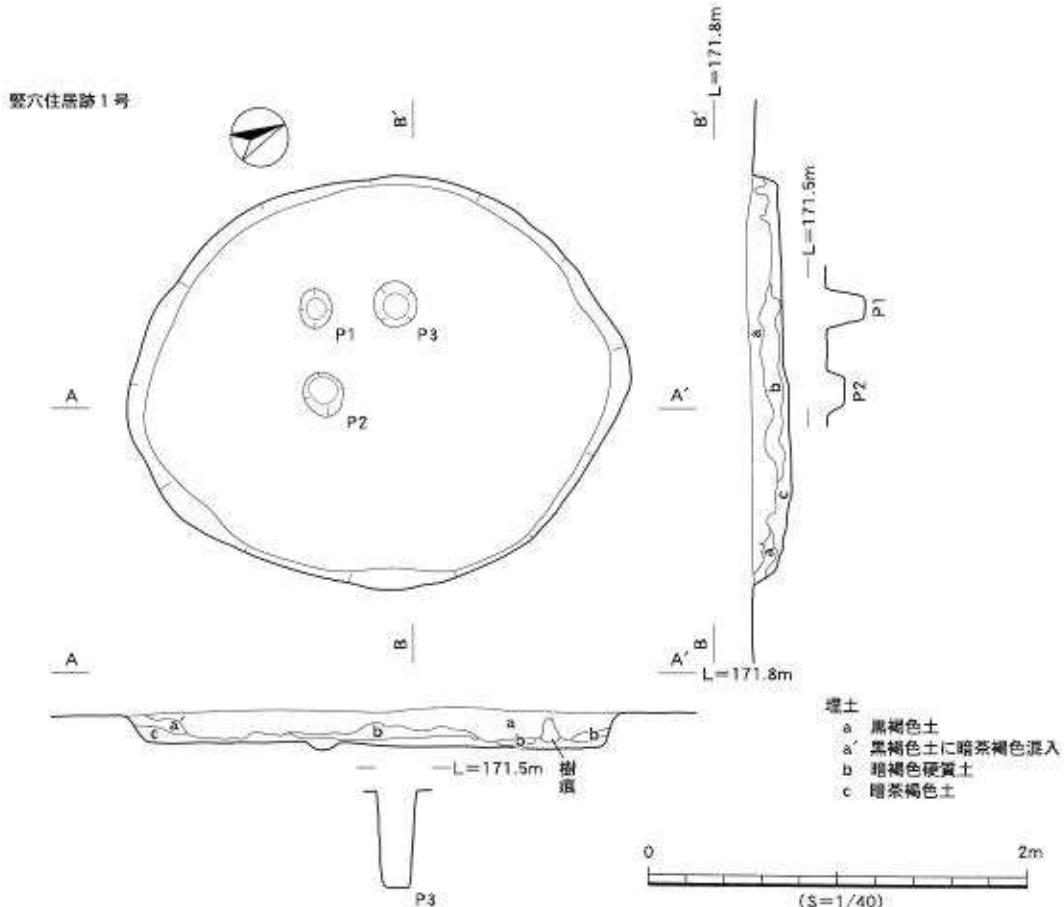
第17図 遺構配置図⑥



第18図 遺構配置図⑦



第19図 遺構配置図⑧



第20図 穫穴住居跡 1号

(2) 遺構

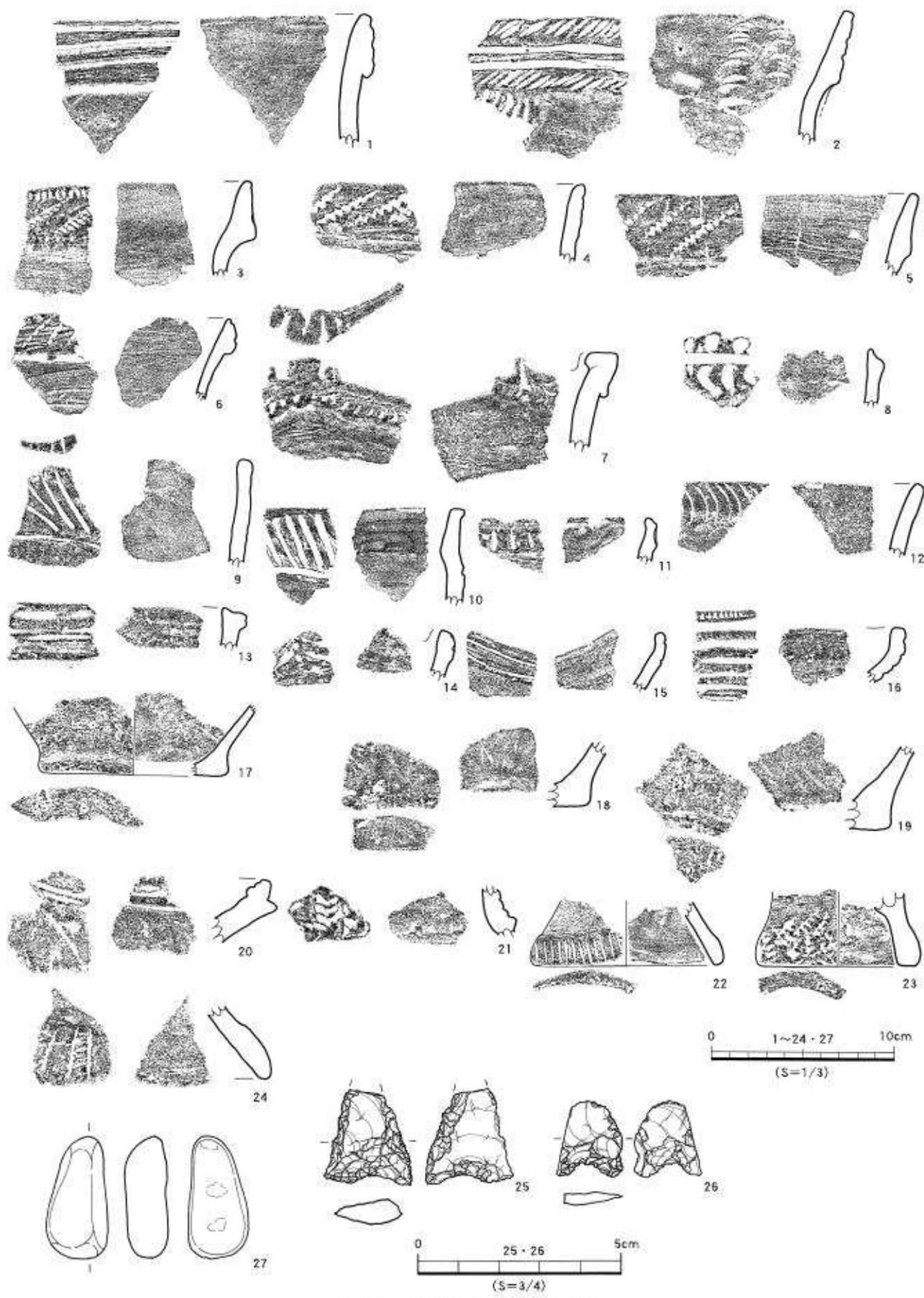
竪穴住居跡 1号 (第20図)

G-16区においてⅦ層上面で検出された。この周辺は、アカホヤ火山灰層まで削平を受けている部分が多く、検出時には時期判断は難しかった。検出時のプランは、長辺2.7m、短辺2.2mの略円形を呈す。調査は、中央を通る2本の直行するベルトを設定して掘り下げていった。硬化面が部分的に見られるが、面としてのまとまりははっきりとしない。柱穴などの付帯施設は、床面検出と同時に3基の柱穴が確認された。これらの記録を行った後に、再度床面を掘り下げて付帯施設等の検出に努めたが、これ以外には見られなかった。

埋土中から出土した炭化物の放射性炭素年代測定をしたところ、 $1,845 \pm 20$ yrBPと結果が示されている。この結果は、調査における時期判断とは異なるが、遺構内遺物の時期判断からここに掲載した。

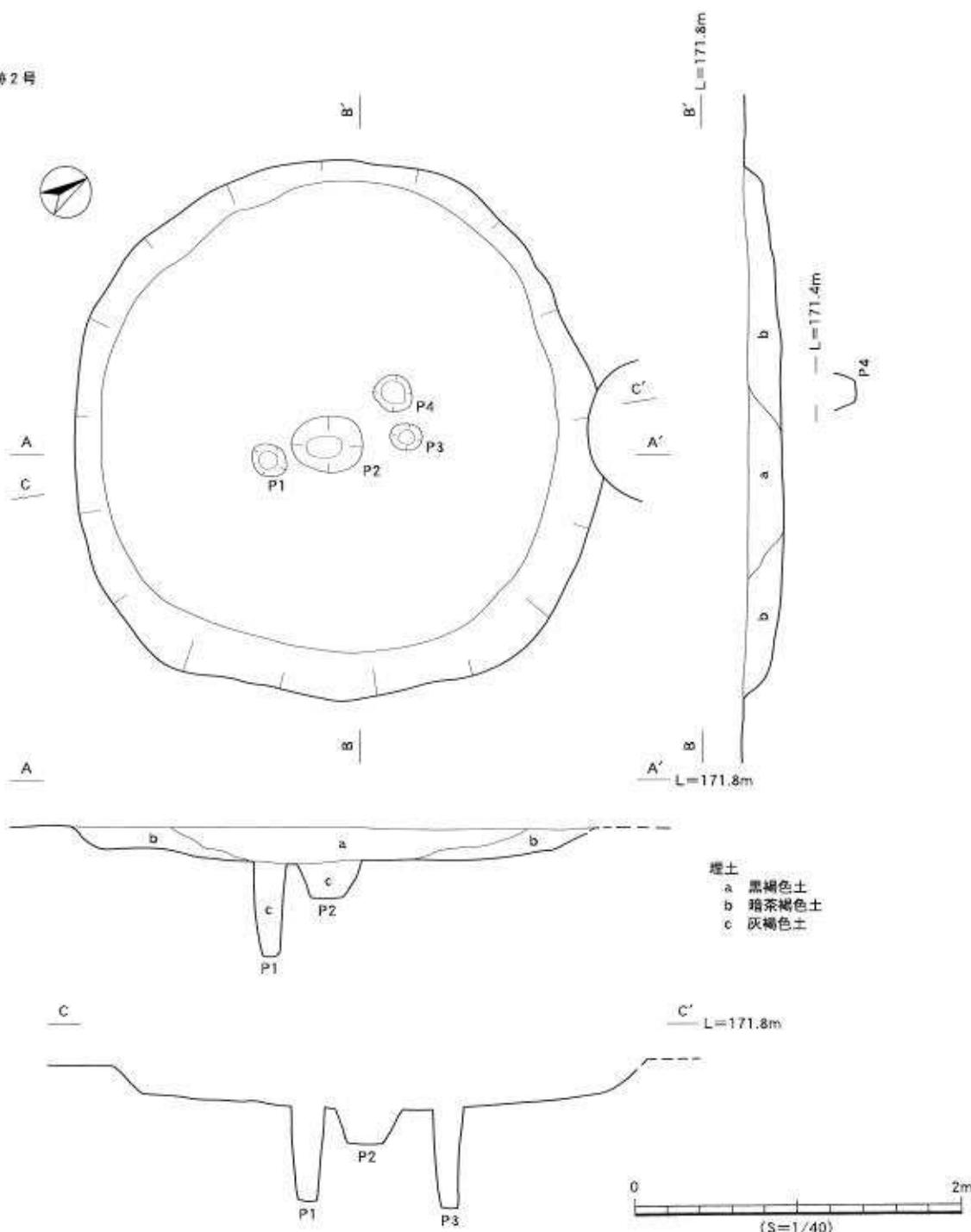
遺物は、埋土中から土器の小破片が多く出土している。完形品あるいは、埋設等の人為的な行為は確認できなかった。これらは、接合作業を経て、244点が出土し、この内27点を図化した。

1は、口縁部がわずかに外反して断面三角形状に肥厚する。肥厚した口縁部には、横位に沈線が施されている。沈線内には、微細な筋状の痕跡が見られ、棒状工具の端部の様相がうかがえる。2は肥厚した口縁部にキザミと沈線が施され、口縁部内面にも横位のキザミが縦に連続する。これは、波頂部に見られる特徴である。3~6は肥厚した口縁部に斜位の貝殻刺突文が施されるものである。3はさらにその上下に刺突文が見られる。7は口縁部がわずかに外反し、波頂部にはM字状の粘土紐貼付文が施される。その下位には粘土紐貼付文が横位に1条めぐらされ、キザミが施されている。8は太めの凹線文が施され、口唇部のキザミも凹点に近い。9~12は口縁部に細沈線が施されるものである。13~16はいわゆる磨消繩文土器の系統かと思われるが、小破片のためにははっきりとしない。17~19は底部片である。外面にはケズリ痕が残されている。20~24は台付皿形土器である。25・26は石鎌片である。両者共に剥片の形状を残しており、側辺部の加工が一部施されていない点から、未製品である可能性が考えられる。



第21図 積穴住居跡1号・出土遺物

竪穴住居跡 2 号



第22図 竪穴住居跡 2 号

竪穴住居跡 2 号（第22図）

J-17区においてⅧ層上面で検出された。検出時のプランは、長辺3.4m、短辺3.4mの円形で、東側は土坑23号に切られている。北側では土坑25号に隣接するが切り合ってはいなかった。

調査は、中央を通る2本の直行するベルトを設定して掘り下げを開始し、床面と思われる埋土の変化を捉えた後に壁面検出をおこなった。壁は緩やかに立ち上がり、貼床や硬化面等は確認できなかった。柱穴などの付帯施

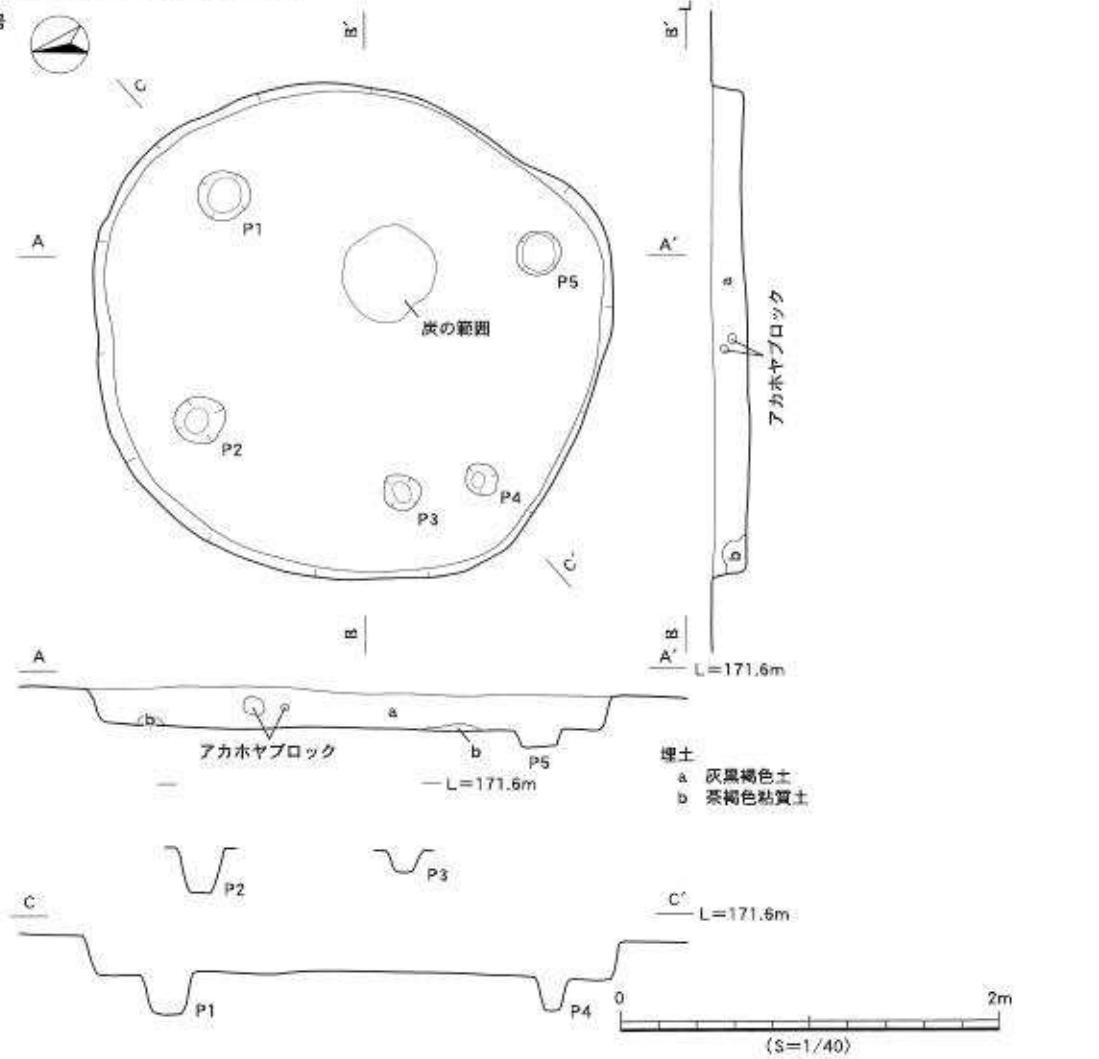
設は、床面を除去した段階で確認され、中央に4基の柱穴が確認された。中央にやや大きめの柱穴がありその左右に小さめの深さ約60cmの柱穴が規則的に見られる。炉・焼土や炭化物の広がりははっきりとしない。埋土中から遺物は出土していないが、埋土の状況や周辺での遺物出土状況などから縄文時代に分類した。

竪穴住居跡 3号（第23図）

K-23区においてVI層上面で検出された。この周辺は、アカホヤ火山灰層が残存しており、検出時のプランは、長辺2.7m、短辺2.6mの略円形を呈していた。

調査は、中央を通る2本の直行するベルトを設定して掘り下げていった。硬化面等は見られず、埋土は單一でVII層が見られた時点で床面と判断した。埋土と床面等の記録を行った後に付帯施設等の確認を行った。この結果、5基の柱穴と炭化物の集中した範囲が検出された。炭化物の集中範囲は、約50cmの円形に検出されたが、堆積は薄く、層としては認識できない。柱穴は20cm程度とやや浅い。これらの記録を行った後に、再度床面を掘り下げて付帯施設等の検出に努めたが、これ以外には見られなかった。遺物は、埋土中から土器の小破片が多く出土した。完形品あるいは、埋設等の人為的な行為は確認できなかった。

竪穴住居跡 3号



第23図 竪穴住居跡 3号・遺物出土状況